

平成28年度事業報告書



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

<目 次>

平成28年度事業計画の概要	1
平成28年度事業計画体系	2
主要施策の取り組み	3
Ⅰ．質の高い活動の確保	3
Ⅱ．スカウト教育法が実現できる教育向上の仕組みづくり	7
Ⅲ．誰もが参画できる環境づくり	8
長中期計画の行動計画より平成29年度に取り組んだ施策	11
一般事業の取り組み	17
1．主として団に関する事業	17
2．主として県連盟・地区に関する事業	19
3．主として日本連盟に関する事業	21
各種主要会議の開催	29
参考（規程等改正一覧）	32
ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	33

平成28年度 事業計画の概要

平成28年度事業は、次の計画に基づき進められた。

「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」

日本連盟創立100周年を目指した長中期計画を踏まえて各種事業に取り組んだ。

事業推進の基本的な考え方

1. スカウト活動の転換

(1) 訓練方法の抜本的改革

インドアからアウトドアへ、ロー・アドベンチャーからハイ・アドベンチャーへ

(2) 指導者の養成

若手指導者の養成(富士スカウト・ローバースカウトから)

新たな指導者の確保(教員、地域の若者などから)

2. スカウト精神の再生(日常訓練を通じて自得)

(1) 奉仕活動(「日日の善行」)

(2) 楽しいスカウト活動(スカウト・ソング、ゲームなど)

《平成28年度の主要施策》

創立100周年長中期計画の推進に連動しながら、「事業計画体系」に基づき主要施策を展開した。

1. セーフ・フロム・ハームの展開

- ・セーフ・フロム・ハーム(思いやりの心を育む教育)を諸活動に段階的に導入し実施展開する。
- ・セーフ・フロム・ハームを実践して指導者としての人格の向上を目指していく。
- ・誰もが理解できる説明資料(例えば映像資料等)を作成する。
- ・基本的な理解を促す研修を県連盟と共に検討し実施する。
- ・上記を踏まえた広報活動をスカウト運動内外に向けて行う。

2. スカウト活動と地域社会の連携強化

- ・地域との連携強化を図るため県連盟と協力してキャンペーンを展開し団の組織拡充にも繋げる。
- ・県連盟は日本連盟の支援を得て、未組織地域への訪問や支援活動を行う。
- ・スカウトの奉仕活動の一層の奨励と促進を行う。(「日日の善行」の実行へ結び付ける)
- ・第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)を契機に企業、団体などとの連携を強化する。

3. コミッショナーの活動の充実

- ・プログラム、指導者養成の課題が検討される中、充実したスカウト活動が展開されるよう隊指導者の支援を強化できるようにコミッショナーハンドブック等の提供や、研修を実施して活動の充実を図る。
- ・日本連盟、県連盟コミッショナーの支援のもと地区コミッショナーを中心とした指導体制を築き上げる。
- ・地区のコミッショナーの活動を総体的に検討する中で、特に団担当コミッショナーの役務やその実施状況を確認、見直しを行う。
- ・ラウンドテーブルの充実を図るため県連盟コミッショナー会議等で方策を研究しマニュアルの作成を行う。

4. 全部門隊指導者基礎訓練のスカウトコースへの一本化と訓練の充実・強化

- ・ウッドバッジ研修所への参加者は、はじめに基礎課程(スカウトコース)を履修し、その後に希望の部門(BVS、CS、BS、VS など)の訓練に参加するように見直し、さらに訓練の充実と強化を図る。

5. 世界スカウトジャンボリーの経験をいかした国際プログラムの充実と人材育成

- ・参加したスカウト達の経験が周囲に共有され運動全体に波及する様なプログラム、環境整備と人材育成などを行う。

6. ボーイ・ベンチャー部門の進級課程の一本化の推進

- ・スカウト部門の初級スカウト章課程から富士スカウト章課程までの進級課程6ステップを一本化する。

7. 日本連盟主催大会の開催と準備の推進

- (1) 第12回日本アグーナリー開催 (平成28年8月12－16日 富士山麓山の村)
- (2) 富士特別野営2016の開催 (平成28年8月16－22日 山中野営場)
- (3) 大和の森 高萩スカウトフィールド開場記念行事の準備 (平成29年夏季実施予定)
- (4) 第17回日本ジャンボリー開催準備 (平成30年8月、石川県珠洲市開催予定)

平成28年度 事業計画 体系

* 個別の定例的な事業項目については別表に掲載してあります。

目標	3本柱	主要施策	施策細目	施策内容
活動的で自立したスカウトを育てる	I 質の高い活動の確保等（重点施策）	1.セーフ・フロム・ハーム「思いやりの心を育む教育」の展開	①28年からの活動に段階的に導入し実施	思いやりを育む教育として安全活動の全国展開 ・県連盟研修の内容と県連講師への指導体制
			②指導者としての人格の向上を目指す	スカウトや保護者から信頼される指導者養成 ・スカウト向けと共に指導者向け研修を重点に実施
			③説明資料の制作（映像資料を含め）	ガイドラインを中心に安全性確保の説明資料作成 ・研修会&配布資料として保護者向けにも活用
			④基本的な理解研修実施（県連盟と協力）	県連盟として研修展開ができるようにする ・県連盟研修の講師などのスケジュール化推進
			⑤SFHをスカウト運動内外で広報する	スカウト活動の特徴の一つとして実施展開する ・BS活動の広報と共にBS運動外部へ発信する
		2.スカウト活動と地域社会の連携強化	①地域にキャンペーン展開し団の組織拡充	地域社会と連携しながら団の組織拡充に努める ・地域社会活動に積極的に参加し奉仕活動展開
			②未組織地域へ訪問新団結成・復活アピール	県内全市にスカウト団を組織できる活動を推進 ・ライオンズ、ロータリー、青年会議所等の協力を
			③奉仕活動奨励促進スカウトに日日の善行	地域社会への感謝の気持ちでお返しをする ・スカウト活動や日常生活でも「日日の善行」を実施
			④23WSJ契機に企業、団体との連携を強化を	企業、団体と継続的に連携を深める ・日本連盟として県連盟や関係者の協力を得る
		3.コミッショナー活動の充実（特に地区コミッショナー）	①充実したBS活動のため隊指導者への支援強化（知識）	隊指導者支援のためのツールやマニュアル整備 ・地区コミッショナーハンドブック見直し発行
			②日コミ・県コミの支援で地区コミの指導体制強化（運営・技能）	地区コミの指導レベル向上のための実技研修 ・県連盟ごとに地区コミへの指導手法の研修会
			③団担当コミの見直し（設定時の趣旨の確認）	団担当コミッショナーの機能が果されてない ・日本連盟・県連盟コミッショナーにて機能検証
			④ラウンドテーブルの充実（マニュアルと運営法）	ラウンドテーブルの機能が十分達成されてない ・日連コミと県コミでマニュアル作成、指導を行う
		4.WB研修スカウト部門へ一本化	①スカウト運動の基本をBS部門研修で理解する	隊指導者がスカウト活動の基本を体験実施する ・各部門別研修は一日型研修を設定実施する ・更新研修などで隊指導者へ活動支援を行う
			②最新情報の提供と質の向上	
	II スカウト教育法が実現できる教育向上の仕組みづくり	5.WSJの経験活用	①WSJ参加経験の波及効果を活かす ②グローバルリーダー育成	WSJ参加経験をプログラム&人材育成に活用 ・海外イベントや大会・ホームステイに参加させる ・若手リーダーを海外行事の指導者に活用する
		6.BS・VS進級の一本化	①初級スカウト章から富士スカウト章までの進級課程を一本化する ②班・隊活動の活性化のため	進歩課程の明確化とBSからの連続性を図る ・各進級課目内容の再検討 ・ベンチャーから途中入隊スカウトの進歩制扱い ・青少年の発達段階を考慮した部門の見直し
	III 誰もが参画できる環境づくり	7.日本連盟主催大会の開催と推進	①28年度の開催事業	・第12回日本アグーナリー開催（8/12～16） ・富士特別野営2016の実施（8/16～22）
			②28年度は開催準備	・高萩スカウトフィールド開場記念行事開催準備 ・第17回日本ジャンボリー開催準備

主要施策の取り組み

I. 質の高い活動の確保等（重点施策）

1. セーフ・フロム・ハーム「思いやりの心を育む教育」の展開

施策細目：1－① 平成28年から活動に段階的に導入し実施	施策内容 思いやりの心を育む教育として安全活動の全国展開 ・県連盟研修の内容と県連盟講師への指導体制
--	---

事業の内容： 世界のスカウト運動で取り組むセーフ・フロム・ハームについて、日本連盟における具体的な取り組みを策定し、「思いやりの心を育む教育」の啓発に努める。

成果と評価： 全国県連盟コミッショナー会議や、各県に於いて「セーフ・フロム・ハーム」へ取り組む意義を説明することで段階的ではあるが浸透している。達成状況としては80%と言える。

施策細目：1－② 指導者としての人格の向上も目指す	施策内容 スカウトや保護者から信頼される指導者の養成 ・スカウト向けと共に指導者向け研修を重点に実施
-------------------------------------	---

事業の内容： 「セーフ・フロム・ハームガイドブック」の制作および全指導者への配布、登録前研修（eラーニング）の設定、セミナーの開催など、全ての指導者に「セーフ・フロム・ハーム」に関する基本的な内容の周知と理解促進を図る。

成果と評価： 「相手の気持ち慮る」、「相手の様子を気遣う」など、指導者としてのモラルの向上を図る上で有効な施策となっている。次年度は各取り組みの検証を行い、指導者の情操面の育成に努める。

施策細目：1－③ 説明資料の制作 （映像資料を含め）	施策内容 ガイドラインを中心に安全性確保の説明資料作成 ・研修会&配布資料として保護者向けにも活用
---	--

事業の内容： 「セーフ・フロム・ハーム」ガイドラインから、より具体的な活動に関する資料を作成し、日常のスカウト活動の質の向上に資する。

成果と評価： 全国的な理解促進のため、スカウティング誌5月号に「より良き理解のために」パンフレットを同送し、全国の指導者に周知した。
 「セーフ・フロム・ハーム」ガイドブックを制作し、スカウティング誌1月号に同送することで全指導者への周知を図った、登録前研修の補助資料として活用するとともに、保護者への説明用資料としても活用されている。

施策細目：1－④ 基本的な理解研修 実施（県連盟と協力）	施策内容 県連盟として研修展開ができるようにする ・県連盟研修の講師などのスケジュール化推進
---	---

事業の内容： 県連盟内における「セーフ・フロム・ハーム」の理解促進のため、研修内容を検討し運営資料を策定する。

成果と評価： 「セーフ・フロム・ハームセミナー運営ハンドブック」を制作し、全県連盟に配布した。この研修は「指導者としての取り組み」、「問題の発生と対応」について多くの指導者と共に意見交換をする場となっており、これまでの活動を見直し、より質の高い活動への取り組みについて意識の変革を図っている。本研修は、来年度も引き続き各地における取り組みを期待できる。

施策細目：１－⑤ S f Hをスカウト運動内外で広報する	施策内容 スカウト活動の特徴の一つとして実施展開する ・BS活動の広報と共にBS運動外部へ発信する
---	--

事業の内容： 機関誌およびホームページなどを活用した周知を図るとともに、外部への広報を行う。

成果と評価： 機関誌５月号にはパンフレットを同梱し、また１月号にはガイドブックを同梱して加盟員への理解促進・普及に努めた。またオンライン研修のためのWEBサイト構築、フェイスブック等のSNSでの紹介・誘導等で、より多くの加盟員が取り組みやすい研修環境の提供に協力した。

日本連盟ホームページに特設ページを開設し、ガイドブックをはじめとする関連資料をいつでも手に出来るようにすることで、セーフ・フロム・ハームへの関心を深められるよう発信している。

外部への広報については、ジャーナリストである磯山社会連携・広報委員長による増田SFH・安全委員長のインタビュー取材記事が「日経ビジネスオンライン」に掲載され、社会に「セーフ・フロム・ハーム」が紹介された。

2. スカウト活動と地域社会の連携強化

施策細目：２－① 地域にキャンペーン展開し団の組織拡充	施策内容 地域社会と連携しながら団の組織拡充に努める ・地域社会活動に積極的に参加し奉仕活動展開
--	---

事業の内容：（１）全国防災キャラバンの展開

イオン株式会社・グループとの連携により、４７都道府県連盟の協力を得てイオンモール等来場者の多い会場全国５６か所で防災に役立つスカウト技能の紹介などのイベント・ワークショップの展開を行い、7,438人のイベント来場者を得た（報告受領済分のみ）。各会場では身近なスカウト技能紹介にあわせ、入団促進のためのPRをあわせて展開した。

（２）難民支援衣料回収プロジェクト

ユニクロとの連携により、不要衣類の回収を全国で展開。28年度は春と秋の２回のキャンペーン期間を設け、およそ３万着の衣類を回収。その一部はすでに難民キャンプに届けられ活用されている。

成果と評価：（１）については２７年度に展開した「オリヅルキャラバン」からの流れもあり、すべての県連盟の協力を得て多くの成果を上げた。イオンからの評価も高く、２９年度も継続・拡大して展開していくこととしている。

（２）についても一定の成果を上げているが、より多くの参加団を得て大きな成果を上げていくべく、２９年度以降も継続して取り組んでいく。なおユニクロとはこのプロジェクトについて提携を結ぶ運びとなり、ユニクロ側のPRパンフレットへの掲載等ボーイスカウトの紹介にも貢献いただいた。また２９年度の取り組み（２８年度末３月から始動）においては、各スカウト団の地域で広く協力を得られるよう、外部に向けた協力依頼チラシ等の配布を試み、より地域社会との連携を強めるべく働きかけていく。

達成状況については、（１）は文科省の後援名義取得という次回課題以外はすべて達成。（２）はより多くの参加団数の獲得という次回課題以外すべて達成した。

また（１）（２）ともに、２９年度の「新広報戦略１０本の矢」の中での取り組みと位置づけ、これらの機会をより強いPR活動の一環としてとらえ展開していくこととしている。

施策細目：２－② 未組織地域へ訪問 新団結成・復活アピール	施策内容 県内全市にスカウト団を組織できる活動を推進 ・ライオンズ、ロータリー、青年会議所等の協力を
--	---

事業の内容： 組織拡充モデル県連盟の高知県において、県教育委員会、高知市教育委員会、高知商工会議所、高知青年会議所、高知柏ライオンズクラブ、高知北ロータリークラブ

ブ、高知新聞社、世界救世教高知布教所他を訪問し、協力・支援要請を行った。
 成果と評価： 今年度の各所訪問は、ボーイスカウト運動をご理解いただくための説明が中心となり、併せて協力、支援依頼を行った。次年度以降に、高知市内、隣接の南国市に新団を発足できるよう働きかけている。

関連して、保護者がどのような教育・プログラムを求めているかを情報収集し、加盟団へ提供すると共に、組織拡充に活かすために、「母親世代タスクチーム」を団支援・組織拡充委員会の下に設置し、2回会合を開催した。

施策細目：2－③ 奉仕活動奨励促進 スカウトに日日の善行	施策内容 地域社会への感謝の気持ちでお返しをする ・スカウト活動や日常生活でも「日日の善行」を実施
---	--

事業の内容： 機関誌7月号で特集記事を展開した。

成果と評価： 特集記事に加え、平成29年度展開するPR計画の中では諸々呼びかけていけるよう、検討を続けている。

施策細目：2－④ 23WSJ契機に企業、団体との連携の強化を	施策内容 企業、団体と継続的に連携を深める ・日本連盟として県連盟や関係者の協力を得る
---	--

事業の内容： ・企業との連携・提携プロジェクト展開

企業メリットを提供できる事業を提案し、企業との提携を進める。
 この成果をもって協賛、長期的な支援を得る関係を構築していく。

- ・防災キャラバン等のような提携事業
- ・企業に有能な若者を紹介していく
企業セミナーのような学生と企業を結ぶ機会の提供
- ・企業にボーイスカウトのノウハウを提供する
企業の新人研修等の機会提供
- ・広告協賛等多くの企業から少額でも継続的な支援を得ていく。

成果と評価： 個々の事業の実施状況は下記のとおりとなる。

- (1) 個々の企業との連携・提携プロジェクト展開
 - ・イオン：防災キャラバン
 - ・ユニクロ：難民支援衣料回収プロジェクト
 - ・キャノン：写真コンテスト
 - ・パナソニック：ムービーコンテスト立ち上げ
- (2) 教育事業（日本アグーナリー）へのプログラム協力等
アイコム、赤城乳業、アスラテック、アテナ、日母おぎやー献金基金、キャノン、富士通、ミズノ、ヤクルト本社 など
- (3) 連盟事業（年次全国大会）へのブース出展協力等
イオントップバリュ、日本ライフセービング協会、ヤマト運輸、キャンパルジャパン、パタゴニア日本支社 など
- (4) ローバースカウトのための企業セミナーをシリーズ展開
ミズノ、富士通と28年度内に2セミナーを開催。その後継続して月次ペースでの定例開催を目指す。予定企業：リオティント、ソニー、パナソニック、ビクトリノックス、モンベル、ヤマト運輸、大和ハウス工業、住友林業 など
- (5) 企業とのコラボレーションによるスカウトのためのバッジ制定
イオン、ユニクロ、キャノン、ビクトリノックス・ジャパン、アイコム、ヤクルト本社 などに協力打診中。プログラム委員会での検討を経て2月教育推進会議に制定案上程予定
- (6) 連盟機関誌への記事提供・広告協賛等
スポーツオーソリティ、イオン、JICA、ナショナルジオグラフィック、キャノン、キャンパルジャパン、ビクトリノックス・ジャパン、アイコム、TSP太陽、ヤクルト本社 など
- (7) 企業にボーイスカウトのノウハウを提供する企業研修提案
1泊・2泊・3泊等での新人研修合宿のメニューを企画。29年度にいくつかの企業に打診・相談をしながら企画案を詰め、30年度の実施を目指す。高萩

スカウトフィールドの活用を想定し企画中

(8) ベーシックスポンサーメニュー策定

寄附とは別で広告協賛等の形での継続的なサポートを受けるための提案メニューを策定中。多くの企業から少額でも継続的な支援を得ていく。

- ・個々の事業、連携相手により達成度合いは様々な幅があるが、総じて以下のような成果と言える。
- ・広く多くの企業とコンタクトを継続できている
- ・ただし23WSJで関係のできた企業総数を見るとまだ不十分
- ・提携プロジェクトにまで進めている企業とは連携度合いが深まっている
- ・ただしまだ事業メリットレベルの提携であり、強い財政支援を得るには至っていない
- ・そこに至る関係構築は地道に進展しつつある

3. コミッショナー活動の充実（特に地区コミッショナー）

施策細目：3－① ① 充実したBS活動のため隊指導者への支援強化（知識）	施策内容 隊指導者支援のためのツールやマニュアル整備 ・地区コミッショナーハンドブック見直し発行
---	--

事業の内容： 地区コミッショナーハンドブックの作成

成果と評価： 隊指導者を支援する地区コミッショナーの役務の理解促進と効果的に支援をおこなうため、「地区コミッショナーハンドブック」を作成し、全国県連盟コミッショナー会議において配布し、研修を行った。

施策細目：3－② 日コミ・県コミの支援で地区コミの指導体制強化（運営・技能）	施策内容 地区コミの指導レベル向上のための実技研修 ・県連盟ごとに地区コミへの指導手法の研修会
---	---

事業の内容： 地区コミッショナーハンドブックの活用

成果と評価： 各県連盟において、地区コミッショナーハンドブックを活用し、各種の研修を開催した。

施策細目：3－③ 団担当コミの見直し（設定時の趣旨の確認）	施策内容 団担当コミッショナーの機能が十分達成されていない ・日本連盟・県連盟コミッショナーにて機能検証
----------------------------------	--

事業の内容： 団担当コミッショナーの役務に関する見直し

成果と評価： 各地域における隊活動の活性化を図るため、若年層で優れた見識、知識、技能を持つコミッショナーの協力を得て、コミッショナー制度やそれぞれの役務、ならびに将来を見据えたボーイスカウトの活動方法等を検討することを目的とする「コミッショナー活動活性化検討タスクチーム」を設立し、平成29年度に検証を行う。

施策細目：3－④ ラウンドテーブルの充実（マニュアルと運営法）	施策内容 ラウンドテーブルの機能が充分達成されていない ・日連コミと県コミでマニュアル作成、指導を行う
------------------------------------	---

事業の内容： 各地におけるラウンドテーブルの内容充実のための指導

成果と評価： 前項同様に、コミッショナー活動活性化検討タスクチームで検討を行っている。

4. WB研修所スカウト部門へ一本化

施策細目：4－① スカウト運動の基本をB S部門研修で理解する	施策内容 隊指導者がスカウト活動の基本を体験実施する ・各部門別研修は一日型研修を設定実施する
--	---

事業の内容： 隊指導者基礎訓練課程の改訂

成果と評価： 全ての部門の指導者がスカウト活動の基本的な知識・技能について修得した上で、各部門の特徴に合わせた隊活動が実施展開できるようになることを目指し、ウッドバッジ研修所の内容を見直した。

これまで各部門別に指導者を集めて開催していた形式から、どの部門の指導者も共通で参加し、スカウト運動の基礎を学ぶ「スカウトコース」と、それぞれの部門の特徴を学ぶ「課程別」とで構成することとした。

試行コースを行った県連盟からは、「野営生活や活動の実技プログラムを、部門にとらわれず『ボーイスカウトの指導者』として学ぶことでスカウティングの本質を理解するとともに、スカウトスキルは各部門で工夫することで年代に応じて活用できるものであることを再認識させることができた。」との評価があった

施策細目：4－② 最新情報の提供と質の向上	施策内容 隊指導者がスカウト活動の基本を体験実施する ・更新研修などで隊指導者へ活動支援を行う
--	---

事業の内容： 隊指導者更新研修の検討

成果と評価： 隊指導者に定期的な研修参加の機会を確保し、隊指導者として必要な知識および技能の修得を図ることにより、能力の保持・向上を図ることを目指し、検討を進めている。

平成28年度は隊指導者基礎訓練課程の改正に注力したため、具体的な更新年数や研修の内容は来年度検討することとした。

II. スカウト教育法が実現できる教育向上の仕組みづくり

5. WSJの経験活用

施策細目：5－①② ①WSJ参加経験の波及 効果を活かす ②グローバルリーダーの 育成	施策内容 WSJ参加経験をプログラムと人材育成に活用 ・海外イベントや大会・ホームステイに参加させる ・若手リーダーを海外行事の指導者に活用する
--	---

事業の内容： 日本連盟主催の海外派遣に加えて、県連盟・地区・団による海外派遣等により海外の大会に参加し、ホームステイを体験する機会を提供する。

若手リーダーが海外行事に参加できる機会を提供する。

成果と評価： 23WSJに参加したスカウトからの要望により、長野県連盟ではフィンランドジャンボリーに県連盟として派遣団を編成して派遣を実施した。

今年度の日本連盟海外派遣は、県連盟の野営大会、各種行事が多く開催され日程が重なり十分な参加者が得られなかった。

CJKプロジェクト・バングラデシュ派遣は7月にダッカで発生したテロの影響で派遣を中止し、ローバースカウト年代の派遣の機会が減った。

スウェーデンで開催された世界スカウト国会議員連合(WSPU)総会でヤングリーダープログラムが開催され、日本からローバースカウト4人が参加したことは、23WSJの効果と言える。

来年度は、例年実施している海外派遣に加え、アメリカジャンボリー、APRジャンボリー、世界スカウトムート、世界スカウトユースフォーラム等が開催され、特に平成28年度内にローバースカウト年代を対象として募集を行った世界スカウトムート派遣、世界スカウトユースフォーラム派遣には多くの申し込みがあった

ことから、23WSJの波及効果により世界に向けて関心が高まったと言える。
これらの参加者には派遣の発表の場を提供して関心を広めながら、さらに引き続き海外行事に参加する機会を提供し、23WSJの波及効果を活かす計画である。

6. BS・VS進級の一本化

施策細目 ①初級スカウト章から富士スカウト章までの進級課程を一本化する。 ②班・隊活動の活性化のため	施策内容 進歩課程の明確化とBSからの連続性を図る ・各進級課目内容の再検討 ・ベンチャーから途中入隊スカウトの進歩制扱い ・青少年の発達段階を考慮した部門の見直し
---	--

事業の内容： 過年度からの検討内容から改定する新進級課程をとりまとめ、関係する規程改正・公示する。

成果と評価： 前年度のスカウト部門検討タスクチームで検討された新たな進級課程について、プログラム委員会で精査を行い、全国大会のテーマ別集会、県連盟コミッショナー会議等で説明し、意見聴取を行い、最終案を取りまとめた。

教育推進会議の承認を得て、11月1日に改定された進級課程を公示し、移行に向けた説明を諸会議や県連盟にて行った。

平成29年9月の施行に向けて関係書籍・資料、新たな進級記章の作成を行った。

Ⅲ. 誰もが参画できる環境づくり

7. 日本連盟主催大会の開催と準備と推進

施策細目：7-① 28年度の開催事業	施策内容 ・第12回日本アグーナリー開催（8/12～16）
-------------------------------------	---

事業の内容： キャンプを通じて、自信と勇気に満ちた生活態度を身につけ、発達障がいを含めた障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合う社会の実現を目指すことを目的に、「挑戦・交流・共に生きる」のコンセプトに基づき、次の通り開催した。

- ・会 期：平成28年8月12日（金）～16日（火）
- ・会 場：静岡・県立富士山麓山の村
- ・テーマ：「We Can! 富士からともしばたこう」
- ・後 援：文部科学省、厚生労働省、静岡県、静岡県教育委員会、富士市、富士市教育委員会、富士宮市、富士宮市教育委員会
- ・参加人員：943人（うち大会スタッフ431人）
この他、デイビジター531人が会場に訪れた

区分	参加隊		本部スタッフ		計
	スカウト生徒	指導者引率者	高校生年代	成人	
国内スカウト	255	169	92	297	813
海外スカウト※	20	19	19	13	71
ガールスカウト	11	9	1	1	22
一般	15	14	1	7	37
計	301	211	113	318	943

※ オーストラリア／マレーシア／シンガポール／台湾／韓国／アイルランド

成果と評価： 当初、700人の参加人員を予定したが、900人を超える申し込みがあり、施設と調整して受け入れた。

全国から一般の参加者、及びサポートスタッフの募集を行い、地元静岡県を中心

に計37人が、加盟員の同じ日程で参加し、大会を通じて多くの経験を提供することができた。
障がいのあるベンチャースカウトや指導者を本部スタッフにも受け入れ、大会運営にあたった。

施策細目：7－① 28年度の開催事業	施策内容 ・富士特別野営2016の実施（8／16～22）
-------------------------------------	---

事業の内容：スカウト運動の基本である野外活動（野営）を通じて、その重要性を確認し、班制教育を通じての「教わること」「学ぶこと」を再確認する。また、プログラムとしての試練を乗り越える体験の中から、信頼・絆の大切さと、友情を育み、スカウトスピリッツ（徳性、忍耐力、気力、清貧）を実践することを目的に、次のとおり開催した。

- ・会 期：平成28年8月16日（火）～22日（月）
- ・会 場：ボーイスカウト日本連盟 山中野営場 他
- ・参加者：スカウト 20県連盟45人
隊指導者 10人 他大会スタッフ等36人
- ・プログラム：
 - 第1日（16日） 設営／開会式
 - 第2日（17日） パイオニアリング（ピラミッド通信塔）
 - 第3日（18日） 場内外ハイキング／野帳
 - 第4日（19日） モールス信号／救急法（水上での救命方法）
 - 第5日（20日） 筏での山中湖横断／ハイキング（1泊）／仮野営
 - 第6日（21日） ハイキング（2日目）／撤営／キャンプファイア／閉会式
 - 第7日（22日） 解隊式／解散

成果と評価：・参加スカウトは96人4こ隊編成を予定したが、45人2こ隊編成に留まった。
・参加者は、長期野営と冒険的なプログラムにより、仲間との絆を深め、高度な技能を発揮する体験を得られた。
・大会の各プログラムを集約する筏での山中湖横断からスタートするハイキングは、大雨の中、仮泊を含むハードなプログラムとなったが、スカウトの記憶に残るものとなった。
・オプションプログラムの富士登山については、台風のため中止とした。
・9人の参加スカウトが大会後に富士スカウト章を受章した。

施策細目：7－② 28年度は開催準備	施策内容 ・高萩スカウトフィールド開場記念行事開催準備
-------------------------------------	--

事業の内容：・高萩スカウトフィールド・プレオープニングセレモニーの開催
・日本ジャンボレット高萩2017実行委員会の開催
・各種開発工事の実施
・プログラム開発

成果と評価：・7月30日（土）「大和の森 高萩スカウトフィールド」の一部施設をオープンし、茨城県教育長、BS茨城県議会議員連盟、BS振興国会議員連盟、市長、大和ハウス工業株式会社執行役員をはじめ、多くのご来賓を迎えてのプレオープニングセレモニーを実施した。
・実行委員会を4回開催し、主催大会開催準備を進め、参加者の募集を行った。
・常設施設として、トイレ棟2棟、シャワー棟2棟、野外講堂を建設し、駐車場の整備を行った。
・地球環境基金の助成を得て、地域の小学生延べ318人を招待して、授業の一環として、自然体験教室を実施し、その活動を通じてプログラム開発を行った。

施策細目：7－② 28年度は開催準備	施策内容 ・第17回日本ジャンボリー開催準備
-------------------------------------	---

- 事業の内容：・実行委員会を編成し、現地視察を含む計5回の委員会を開催して、基本実施要領等を検討した。
- ・大会の概要、自団の隊のままで参加する方式、参加者の資格と隊編成を県連盟へ周知するとともに、参加者割当て希望人数および参加形態に関する事前調査を実施した。
 - ・大会本部組織とサブキャンプ本部の運営について検討し、ブロックでのサブキャンプ担当を依頼した。
 - ・大会の主要な取引・業務委託となる「会場整備計画および設計業務、会場設営業務」と「食材調達および給食業務」について、プロポーザル方式（企画提案方式）により、取引業者を選定した。
- 成果と評価：・基本実施要領を中心とした大会の基本計画を取りまとめ、参加者募集の準備を整えた。
- ・自団の隊のままで参加する方式を周知・促進したが、理解の得られた県連盟が少なかった。
 - ・前年度の大会準備特別委員会で検討されたサブキャンプ計画を、ブロックの人数規模に応じた区分に見直した。
 - ・プロポーザルの概算見積もりに基づいて、予算案を編纂した。

長中期計画の行動計画より平成28年度に取り組んだ施策

1. コミッショナーの充実

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
1-1	地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り	コミッショナーハンドブック(地区編)を発行する。これに基づき、コミッショナーを中心に地区内の支援体制を構築し、全ての役員が団、隊の支援を強化する。	○	○	○	○	○			コミッショナー チーム
1-2	地区コミッショナー養成訓練を充実する	HB(地区編)を軸に研修実施。(日連→県連→地区)	○	○	継続	⇒	⇒	⇒		
1-3	ラウンドテーブルの研究及び充実を図る	ラウンドテーブルのあり方の研究と定型外訓練の場として活用する。	○	○	○					
1-4	団担当コミッショナーの検証	H28～29 団担当コミッショナー制度を調査する。 H30年度中に継続か廃止か判断する。	○	○	判断					
1-5	現任研修開始による支援任務の強化	再任時に研修を必ず実施。	○	○	○	○	○	○	○	
1-6	役務推進の自己貢献確認システムの導入(役務の進行状況を自己評価する)	自己研修課題を設定し、任期内に成果を上げることを課す。 正コミッショナーに自己評価を報告する。	○	○	○	○	○			
1-7	ブロック幹事の任務強化	研修、情報等を伝達するとともに、ブロック内の活動活性化の中心となる。	○	○	○	○	○	○	○	
1-8	県連盟コミッショナーの日本連盟登録	業務の重要性を鑑み スカウト活動活性化の中心である。 日連方針の推進者であることから今後検討する。	○	○	○	○	○	○		
1-9	コミッショナー制度についての研究諮問会議の設置	コミッショナーのあり方・制度を検討し答申する。	○	○	○					
1-10	各部門の質的向上	特にBS部門を中心としたもの。	○	○	○					

「コミッショナーの充実」については、平成28年度の主要施策として取り組んだことから、主要施策3の記載(P. 6)を参照

2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
2-1	ポリシー(考え方)の制定、ガイドライン制定、登録との連動	平成27年度に制定済。登録との連動は検討中。	⇒							SH安全
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。	○	○	○	○				SH安全 コミ
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用	普及を図るためツールを作成し、提供する。	○	○	○	○	○	○		SH安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	危害を起さぬ機運づくりと広報活動による繰り返しの周知行動を起こす。	○	○	○	○	○	○	○	SH安全 社・広報

「セーフ・フロム・ハーム」については、平成28年度の主要施策として取り組んだことから、主要施策1の記載(P. 3)を参照

3. 指導者養成

		2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する		○	○	○	○	○	○	指導者 養成
3-3	基礎訓練を全課程で共通化	○	○	○					指導者 養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。)	○	○						タスク チーム
3-5	指導者の更新研修の確立		○	○	○	○	○	○	ディレクター チーム
3-6	任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う)		○	○	○	○			タスク チーム

3-3 について (隊指導者基礎訓練課程の改訂)

「基礎訓練を全課程で共通化」については、平成28年度の主要施策として取り組んだことから、主要施策4の記載(P. 74—①)を参照

3-4 について (ウッドクラフトコース2016の開設)

- 指導者が長期間の野営を通じ、自然の中で生活する技能を用いてスカウティングの本質的な楽しさについて再確認し、多くの体験を各地に広げ、隊プログラムが充実していくことを目指して開設した。
- 厳しい自然環境からの学びを受けながら長期間のキャンプ生活を体験し、仲間との協働を通じてスカウト野営の醍醐味を感じ取ることが出来た。
- 来年度も本事業を開催し、各県連盟の野営場において実施・展開できるような充実した内容を検討する。



4. 地域コミュニティづくり

		2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	○	○	○	○	○	○		団支援・ 組織拡充
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・ 組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	○	○	○	○	○	○		役員 事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	○	○	○					SIH安全 防災 危機管理

4-1 について

- 組織拡充モデル県連盟の高知県において、12月11日にイオンモール高知で開催した防災キャラバンに、団支援・組織拡充委員会として支援を行った。また、県連盟の他に日本赤十字社高知県支部、高知県住宅課、高知市消防局、高知市地域防災推進課にも協力をいただいた。

4-2、4-3 について

- 組織拡充モデル県連盟の高知県において、県教育委員会、高知市教育委員会、高知商工会議所、高知青年会議所、高知柏ライオンズクラブ、高知北ロータリークラブ、高知新聞社、世界救世教高知布教所他を訪問し、協力・支援要請を行った。
- 今年度の各所訪問は、ボーイスカウト運動をご理解いただくための説明が中心となり、併せて協力、支援依頼を行った。次年度以降に、高知市内、隣接の南国市に新団を発足できるよう働きかけている。

4-4 について

- 「防災・危機管理タスクチーム」を編成し、検討を重ねて提言を答申し、これに基づく検討を開始した。
- アジア太平洋地域「災害対応ワークショップ」を10月5日から10月9日まで茨城県つくば市で開催し、14の国と地域から53人が参加して災害への対応について話し合った。

5. プログラムの見直し

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○					プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行					
5-3	進歩の見直しターゲットバッジ・マスターバッジの発展的廃止	進歩課程の改定による移行時期満了による廃止。		○	○	○	廃止			
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-5	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エントリー部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○					

5-1について

- ・前年度のスカウト部門検討タスクチームで検討された新たな進級課程について、プログラム委員会で精査を行い、全国大会のテーマ別集会、県連盟コミッショナー会議等で説明し、意見聴取を行い、最終案を取りまとめた。
- ・教育推進会議の承認を得て、11月1日に改定された進級課程を公示し、移行に向けた説明を諸会議や県連盟にて行った。
- ・一本化された進級課程の現行の両部門での取り組みを周知するとともに、部門の一体化について、過年度の検討内容を精査していくこととした。

5-2について

- ・コミッショナーのものとタスクチームとして、教育関係者有識者会議(仮称)を設置することとし、その編成を調整している。
- ・プログラム委員会のタスクチームとして、BVS部門とCS部門の新たな年齢区分を前提とした「訓育、活動の目標、活動の実施」の見直しとともに、両部門の進級課目・進歩課目を見直した。

5-3について

- ・新たな進級課程の選択課目は技能章とし、移行完了とともに廃止することとした。

5-4について

- ・ビクトリノックス・ジャパン社の協力により、スカウト活動とナイフについて考えるプログラム開発フォーラムを2回開催した。
- ・プログラム委員会は、社会連携・広報委員会と連携して、CS部門でのプログラム導入について検討した。

5-5について

- ・進級課程検討の中で教育効果の高いアウトドア活動を展開、長期野営を進める方策の検討を行っている。

5-6について

- ・タスクチームにて、BVS部門を遊育エントリー部門とした「訓育、活動の目標、活動の実施」の改正案を作成した。
- ・BVSの進級課目についても見直しを行い、現行の課目から「幼稚園や保育園でもやっていること、家庭でもできること」を除き、スカウトの特色を活かした内容として取りまとめた。
- ・タスクチームにて、CS部門の新たな年齢区分の4学年による「訓育、活動の実施」の改正案を作成した。
- ・CSの進歩課目についても見直し、4学年による課程と年齢を下げた場合の内容の見直しを行った。
- ・現行のBS部門・VS部門の一体化について、新たな「スカウト部門」として過年度の検討内容を精査しながら推進していくこととした。
- ・RS部門については、過年度の検討内容を精査しながら、研究・社会貢献部門とする在り方について、引き続き検討していくこととした。

6. 登録制度の見直し

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を 探る。	○	○	○	○	○			団支援・ 組織拡充 プログラム コミッショナー 財務
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	少子化による人数の少ない隊のあり方を探る。	○	○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特に BVS登録、RS登録)	部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。 (BVS、RSの登録費について)	○	○	○	○				

登録制度の見直しは、前項のプログラムの見直しに応じて進めることから、今年度は状況把握を開始する段階で、平成29年度以降に問題点を確認して、具体的な見直しを検討する。

7. スカウティングにおける成人の役割

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
7-1	多彩で多様な人材を確保するためのスカウティングにおける成人のライフサイクルの定着化	役務が一人に集中しないよう定着化を図る。	○	○	○					指導者養成 コミッショナー
7-2	インサースサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。	○	○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	23WSJに参加・参画した人材を活用する。(人材の多様性を図る)	23WSJに協力頂いた人(特にホームステイ関係者)をアプローチして、援助を依頼する。	○	○	○	○				国際
7-4	幅広い人材の登用(特に若いユース等の県連・日連への登用)	運動の理解者→協力者→実務者に(そして登用)	○	○	○	○				プログラム コミッショナー 国際
7-5	ローバーの育成	APR、WOSMへ戦略的に育成して派遣する	○	○	○	○				

7-1については、指導者の任務期間の長期化の解消や、新規指導者の獲得と養成を行うために、当連盟における成人のライフサイクルを確立し、定着化を目指している。

7-2については、隊指導者の日常の活動に対するトレーナーの個別支援については、指導者の資質の向上に資する取り組みとして、適切な支援が出来るよう、今後も全国県連盟コミッショナー会議やトレーナー研究集会などにおいてインサース・サポートの推進を勧奨していく。

7-3については、平成28年度の主要施策であることから、「Ⅱ. スカウト教育法が実現できる教育向上の仕組みづくり」の「5. WSJの経験活用」を参照。

7-4、7-5については、様々な分野に幅広い人材が活躍出来る環境作りを進めている。

8. 情報伝達手段の刷新

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる	タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取組を展開する。	○	○	○	○	○			事務局 ICT タスクチーム
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信	目標 ①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。 ②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。								
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有	③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等								

ICTタスクチームを設置し検討を開始し、関係委員会、事務局で次の目標に取り組んだ。

目標①について

- ・データによる文書送付をすすめたが、現段階では紙文書と併用しているため、次年度はデータの比率を高める。
- ・PR計画推進のための説明資料等は全国とファイル共有を進めている。
- ・各委員会や事務局で作成したリソースを全国の加盟員が使える資産とする取り組みを進めている

目標②について

- ・ICTタスクチームで実施している。今後、様々な会議に拡げていく。

目標③について

- ・社会連携・広報委員会、国際委員会、県連盟コミッショナー会議で開始している。
- ・会議用にタブレット約20台を導入し、次年度の諸会議から本格的に導入していく。

9. 組織体制の検討

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り（「企業連携」「公益性」を意識した組織）	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業をめざす。	○	○	○					事務局

9-1について

- ・計画進行を監視するチームまでは設置されていないが、事業報告のまとめ、事業計画の策定の中で、各種会議で進捗状況を確認している。

9-2について

- ・今年度に「社会連携・広報委員会」、事務局には「社会連携・広報部」を設置し、連携して新たな取り組みを進めている。
- ・企業連携、公益性は、様々な方策を打ち出し、成果が見え始めている。

9-3について

- ・県連盟代表者会議、県連盟コミッショナー会議、全国事務局長会議等の機会に情報共有を進め、今後の業務強化に備えている。

9-4について

- ・今年度に「100周年記念事業準備委員会」が設置され、今後基金に関する検討を行う。

10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 他

国家資格認定制度については、平成29年度から取り組みを検討することとした。

11. 公益事業の取り組み

			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			コミッショナー プログラム 社・広報 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			事務局
11-4	現代青少年の研究	教育有識者会議を編成し、研究する。	○	○						プログラム 事務局

- 11-1について
 - ・組織外の維持会員への表彰を検討している。
- 11-2について
 - ・機関誌では7月号で特集記事を掲載した。PR計画に一部要素を含めつつ準備を進めている。
- 11-3について
 - ・プログラム委員会、RCJを中心に今後検討を進める。
- 11-4について
 - ・教育関係有識者会議（仮称）について、理事会の下に編成することを確認し、編成を調整している。
 - ・大妻女子大学社会心理学教授等に協力して、ボーイスカウトにおける体験活動が、青少の①生き力、②リーダーシップ、③自尊感情に与える影響を明らかにすることを目的とした研究を行い、調査項目を整理し、来年度に調査実施を予定している。

12. 野外活動施設の確保

		2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	主担当
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)		○	○	○				
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	○	○	○	○	○	○	○	
12-7	施設を通じたパートナーシップの構築(自治体、企業、学校、教育機関、他団体、国(文部科学省、環境省、林野庁等))	○	○	○					
12-8	ジャンボリー会場となりうる土地の確保	○	○	○	○	○	○	○	

12-1、12-2、12-4については、平成29年度からの取り組みとなる。

12-3については、平成30年度からの取り組みが予定されている。

12-5について

- ・地球環境基金の助成を得て、地域の小学生延べ318人を招待して、授業の一環として、自然体験教室を実施し、その活動を通じてプログラム開発を行った。

12-6について

- ・「RCJクエスト2016 in 高萩」を開催し、全国から122人のローバー年代の青年が参加し、高萩スカウトフィールドの開拓・整備作業を行った。

12-7について

- ・諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図る。

12-8について

- ・候補地となっている関係県庁との調整は停滞していることから、今後新たな候補地を探す必要もある。

一般事業の取り組み

1. 主として団に関する事業（団－１～１７）

	一般事業	所管組織			
		日	県	地	団
主として団に関する事業	1 スカウトの信仰を奨励する。（信仰奨励委員会・宗教関係者の会）	◎	◎	◎	◎
	2 礼儀（挨拶）と規律（基本動作とスマートネス）を基準に基づいて確実に指導する。（日コミ・県コミ・地区コミ）	○	◎	◎	◎
	3 公共のマナーの大切さについて理解を喚起する。（日コミ・県コミ・地区コミ）				
	4 県連盟コミッショナー推進のアクションプランの実施・状況を確認し継続する。（日コミ・県コミ）	○	○	○	◎
	5 英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）の推進を図る。（プ）	◎	○	○	◎
	6 団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関する満足度調査」を活用する。（団・組）	○	○	○	◎
	県連盟・地区は有効活用の支援を行う。		○	○	
	7 各団で説明会の普及を図る。県連盟・地区は団が有効活用できるよう支援を行う。（団、県連盟、地区）		○	○	◎
	8 BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し（プ、県コミ）、隊、団がこれを活用する。県連盟・地区は団・隊が有効活用できるよう支援を行う。	◎	○	○	◎
	9 スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用する。（プ）	○	◎	◎	◎
	10 「班活動バッジ」の有効活用（隊）、県連盟・地区は有効活用の支援を行う。（プ）	○	◎	◎	◎
	11 『スカウティング』誌の充実を図り（広）、隊団での有効活用を促進する。（コミ） （隊・団指導者に向けた「スカウト教育法」の理解・応用に具体的に役立つ記事や保護者の理解促進に資する記事を掲載する。）	○			○
	12 第59回JOTA、第20回JOTIへの参加を推進する。（プ）	○	○		○
	13 隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にする。（スカウトの成長などについて）				○
	14 「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。（プ・県連） （地域各種団体とも協力して地域の奉仕活動や老人ホーム訪問等を推進する。）	○	○	○	○
	15 スカウトの「日日の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。（隊）				◎
	16 班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。		○	○	○
	17 東日本大震災の復興支援活動を展開する。（団、地区、県連、日連）	○	○	○	○

団－１：常設委員会となって３年目の「信仰奨励委員会」では、宗教章授与基準を設置していない教宗派でも取得できる仕組み等、信仰奨励、普及のための検討を行った。

- ・委員が分担してスカウティング誌に信仰奨励を図る記事を執筆、掲載した。
- ・全国の宗教関係者の人材バンク的イメージの会として「宗教関係者の会」を設置し、５月の全国大会時に発足総会（出席会員１３人）を行った。現在の会員数４１人。
- ・全国大会にて、テーマ集会として「今さら聞けない宗教章のとり方」をテーマに実施した（参加者１９人）。
- ・教育規程「宗教章に関する基準」施行細則 7-7-2「申請手続きと授与」（３）と「宗教章授与申請書」の手続きの図について、改正を行った。
- ・本年度は４０１人が宗教章を取得した（前年度取得者４１２人）。

団－２：定型訓練の参考資料として改訂した「基本動作・礼式の基準」を各地における基本動作の指導に活用している。

団－３：公共のマナーの大切さについては、「日本連盟コミッショナー通達（夏季の諸活動・冬季の諸活動）」により、各県連盟を通じて周知している。

団－４：全国県連盟コミッショナー会議において、各県連盟コミッショナーのアクションプランを発表し、地区、団における取り組みを共有した。継続して各県連盟の状況を発表することで、各地区・団のさまざまな状況から新たなアイデアや取り組みを検討することができる。

団－５：英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）は、１４０以上の国と地域で展開され、８００万人以上の青少年が参加し世界的にも認められている本プログラムをローバースカウトおよび同年代の指導者に提供を引き続き実施し、プログラムの推進や推奨を行っている。平成２７年度までに、研修会を修了したアワードリーダー２３８人が登録され、更新した人簿を、参加費用の改定の情報とともにホームページに掲載した。今年度は、新たに１０人（前年度１３人）のスカウトが参加登録し、延べ３１人のスカウトがアワード取得に向けて取り組んでいるが、対象年齢の加盟登録人数に比べまだまだ少ないため更なる周知や、実際にスカウトを指導しているアワードリーダーの情報共有が必要となっている。

団－６：「スカウト活動に関する満足度調査」は、既に実施している団があるが、より効果的に進められるようホームページ等での紹介を「団支援・組織拡充委員会」で準備している。

団－７：「各団での説明会」の普及は、より効果的な内容とする対応を「団支援・組織拡充委員会」での検討、「社会連携・広報委員会」のPR戦略による題材の提供等で進めている。

団－８：BV S部門からCS部門への上進率を高めるために変更した上進時期、及びCS部門からBS部門への上進率を高めるため、変更した上進時期と月の輪について周知を図っている。平成27年4月1日施行後の実施状況について、一部県連盟で調査したところ、CS新課程への移行は87%、月の輪の実施は75%であった。

団－９：スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用については、隊、団活動の更なる推進の一環として、隊指導者の実践に役立つツールとして「スカウトゲーム集」を平成26年度に発行し、これが活用され、より楽しい魅力的な隊活動となるようゲーム集の周知を図っている。このゲーム集は、これまでに2刷（年間頒布数478冊）を発行し、多くの指導者に活用されている。

団－１０：「班活動バッジ」の有効活用（隊）、県連盟・地区は有効活用の支援については、よりよき「班」を目指すためのツールの一つで、取得要件が認証されることでバッジを取得し、班旗に付けることができる「班活動バッジ」（クオリティーパトロール：平成25年4月1日に設定）の活用促進を周知している。今年度の班活動バッジの年間頒布数62個（平成28年度ボーイ隊数＝1,928隊、取得率3.2%）であった。

団－１１：スカウティング誌の充実と隊・団での有効活用については、記事を活用出来る内容にする等により進めている。

団－１２：第59回JOTA、第20回JOTIは、次のとおり実施された。

- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として“Discover Our World”のテーマのもと、世界中のスカウト関係者が、無線交信やインターネット接続での情報交換により、お互いを理解し知識と友情を深めた。
- ・開催日時 平成28年10月14日（金）00:00～24:00 72時間
- ・日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ協力のもと、東京・ボーイスカウト会館に無線機等を設置して、2泊3日の期間、運用・参加した。
- ・今年度より、参加の報告をウェブでの入力方式で対応した。

日本連盟での運用・見学者は、3日間で延べ50人、国内の運用・参加について、23県連盟68人から報告があり、延べ883人が参加・見学した（平成27年度は63件、延べ944人）。参加の内訳としては、JOTA参加が24件、JOTI参加が13件、両方への参加が23件、計60件で、参加スカウト418人、参加指導者・支援者309人、見学者157人であった。運用件数・参加人数は昨年度を下回ったが、JOTA・JOTI両方に参加する形態が増えた。

団－１３：隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にすることについては、「団－７」と同様、「団支援・組織拡充委員会」と「社会連携・広報委員会」の取り組みでもサポートを進めている。

団－１４：「スカウトの日」は9月19日（第3月曜日敬老の日）に一般財団法人セブンイレブン記念財団の協賛、文部科学省・環境省・厚生労働省の後援をいただき、テーマ“地球大好き！ I Love the Earth.”のもと、「日々の善行」の一環として全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を展開した。今年度より、参加申し込み及び活動報告をウェブでの入力方式で対応した。申し込みのあった団・隊には、『環境保全』をテーマにFSC（森林管理協議会）、WWF（世界自然保護基金）と共同で作成した紙芝居、両団体の活動を紹介する冊子、参加人数に応じた参加記念バッジを配付した。参加報告集計結果は、参加団748団、参加者25,335人であった。

（平成27年度実績988団、34,424人）。実施報告を今年度よりインターネットのみとしたため、実際に活動を実施したもののインターネットの入力に対応できない団があり、報告数が減少したと考えられる。この取り組みを広く一般に周知するため、日本最大級の環境展示会「エコプロ2016」にブース出展し発信した。環境保全・環境美化活動以外にも、地域の奉仕活動が展開されるよう検討している。

団－１５：スカウトの「日々の善行」については、今年度の主要施策（2－③）として取り組んでいる。

団－１６：地域奉仕活動を地域団体とも協力して進めることについては、各地域根ざし、他団体、地域行政などと連携をした奉仕活動について、日本連盟としては「スカウトの日」での展開などでの奨励を行ったが、通年を通じた取り組みなど、今後も継続して促進を進める必要がある。

団－１７：東日本大地震の復興支援活動については、平成28年度については、これまで行ってきた支援を継続して行った。また、4月に熊本で発生した地震について、熊本県連盟、九州・沖縄ブロックの支援活動を通じて、被災地支援を行った。

（東日本大震災）

- ・震災以降、被災県連盟のうち、岩手連盟、福島県連盟の被災団の登録について、災害支援金などから登録料の一部を拠出する支援を行った。
- ・震災以降、夏季には那須野営場に福島県相馬市の小学生を招待する「にこにこキャンプ」（主催：子ども

の身体と心の成長支援ネットワーク）の運営に協力した。
 (熊本地震)

- ・地震発生後、熊本県連盟が中心となって立ち上げた「ボーイスカウト災害ボランティア熊本活動基地」の設置、運営に、職員の派遣、物資の提供などの連携、協力をした。(4月末から8月末の設置)
- ・活動基地は、全国からのボランティア受入れを行い、被災地のボランティアセンターと調整し、各地にボランティア派遣を行った。運営については、熊本県連盟を中心として、九州・沖縄ブロック内の各県連盟が輪番で基地運営スタッフを派遣し、円滑な運営を行った。
- ・義援金、支援金の受付を行い、各県連盟からの義援金をとりまとめ日本赤十字社に届けた。

2. 主として県連盟・地区に関する事業(県－1～9)

		所管組織			
		日	県	地	団
主として 県連盟・ 地区事 業	1	特に若手指導者を表彰できるようにする。(日コミ・県コミ)			
	2	各種訓練機関(BS講習会、WB研修所、安全セミナー、WB実修所、団委員実修所など)を実施する。(指)			
	3	「スキルトレーニング」への積極的な取り組みを促進し、上級訓練への参加者数を増加させる。(指)			
	4	隊長の当該隊指導者上級訓練課程への参加を促進する。(指、コミ)			
	5	指導者の資質向上を図る。(指・県コミ)			
	6	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。(団・組)			
	7	組織間の訪問を推進する。日連→県連、県連→地区、地区→団			
	8	アウトドアチャレンジ事業を県連盟独自事業として展開する。			
	9	安全促進(基幹)フォーラムを開催する。(SfH・安)			

県－1：若手指導者への表彰の取り組み状況は次のとおりである。

- ・隊長・団委員長対象表彰は、推薦基準を変更したことにより、29年度表彰では多くの指導者の推薦をいただくこととなった。
- ・国会議員連盟表彰は、26年度表彰(25年度申請)より推薦時の年齢が50歳以下であることとし、若手指導者を表彰する機会が増えた。

県－2：現行訓練体系に基づく各種訓練を全国各地で実施した。

ウッドバッジ研修所(59コース)

- ・59コースの内、ビーバースカウト課程、カブスカウト課程においては、開設コースの7割が宿舎泊による開設となった。
- ・各課程のセッションの運営に関しては、今年度もコースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を生む努力がおこなわれている。

団委員研修所(13コース)

- ・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が求められるが、おおむねコースの目的を達成できている。

安全セミナー(67回)

- ・本セミナーは、2、3人から20人以上の集合型で行うなど、対象者数によって運営方法を柔軟に変えることが特徴となっている。

コミッショナー研修所(5コース)

コミッショナーとして、隊・団の現状を把握し、支援を行うことの重要性の理解と、業務の流れ、コミッショナーに求められる知識、技能、態度などに関する理解を深めることにポイントを置いた研修内容となっている。セッションの展開方法については参加者の状況や、地域差により所長の指導に任せているが、おおむねコースの目的を達成できている。

県－3：スカウトへの野外活動指導力を高め、プログラム企画力の幅を広げるために、スキルトレーニングを設置している。このスキルトレーニングの履修認定作業を広く、きめ細かく実施するため、各県連盟の推薦による「スキルアップアドバイザー(スキルトレーニング履修認定者)」を委嘱し、日本連盟トレーナーを必要数確保できない県連盟の指導者がスキルトレーニングに取り組み易くしている。平成28年度は上級訓練第二教程の開設が予定通りではなかったが、引き続き指導者の資質向上のためにスキルトレーニングの積極的な取り組みを推進する。

県－4：指導者自身の自己研鑽や、任務変更のために新たに上級訓練課程への参加が求められる指導者に対して

は、各県連盟の協力を得て上級訓練の内容を周知し、必要な研修への参加について勧奨する。県連盟ディレクター研究集会において上級訓練への参加状況を示し、あらためてスキルトレーニング設置の意義を説明して、各県における上級訓練課程への参加促進を行った。各県連盟において第一教程への取り組み状況を十分に支援し、計画的に第二教程への参加希望者の確保が必要である。

県－５：全国の指導者の資質向上のため、隊・団への継続的な支援を行う。各県連盟において、インサービス・サポート（指導者の任務中の支援）の充実に努めることにより、指導者一人ひとりが自己研鑽によって知識・技能・心構えを高め、日常の活動の充実や団の発展に寄与できるよう、継続して支援を行う。

県－６：「組織拡充担当」を団・地区・県連盟に置き組織拡充を推進することについては、団支援・組織拡充委員会で全国の組織拡充担当委員長会合を１１月５日、６日に開催し、推進を依頼した。

県－７：組織間の訪問を推進することについては、日本連盟から県連盟へは、組織拡充モデル県連盟として高知県連盟、山口県連盟、来年度からのモデル県連盟として秋田県連盟を訪問している。県連盟から地区、地区から団への訪問は、各県連盟で推進している。

県－８：平成２６年度より事業を自然体験推進協議会（ＣＯＮＥ）に事務局運営を移管し、実施する都道府県連盟とＯＤＣ事務局とで実際に事業を進めている。今年度も当連盟として事業に対する直接的なかかわりは行わず、実施する。連盟組織内へはＣＯＮＥに移管したＯＤＣ事務局が運営を働きかけている。当連盟としては事業権を保持しているので、今後の本事業の方向性について引き続き検討を行っている。

県－９：安全促進（基幹）フォーラムについては、ボーイスカウト活動における安全の促進により、事故発生件数の低減化を図ること、日本連盟が構築した「安全確保と補償のシステムループ」の理解を広めること、蓄積された事故実績データの有効活用を図ることを目的に開催している。このフォーラムは、平成２１年度から開始され、平成２８年度までに３７回（参加４３県連盟）開催され、延べ１，６５６人の参加を得ている。

更に、基幹フォーラムに参加した指導者による拡大フォーラムの開催は１２県連盟で延べ３４回、９４６人の参加を得て開催された。内、本年度は、４会場、８０人の参加を得て開催された。

平成１７年度当初の共済事業（Ｈ１７－Ｈ２１年度）から目標としてきた①「事故発生件数の低減化」

は、共済事業の周知に伴い年々増加はしているものの、目標としてきた②「日本連盟が構築した安全確保と補償のシステムループ」の理解及び貴重な事故実績データの有効活用は本フォーラムを行うことにより達成できた。

3. 主として日本連盟に関する事業（日ー１～５０）

	一般事業	所管組織			
		日	県	地	団
主として日本連盟に関する事業	1 RS部門の在り方について方向性を検討し、確定する(プ)	◎			
	2 全国ローバースカウト会議(RCJ)を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。(プ)	◎	○	○	○
	3 イン・サービス・サポート(指導者への任務中の支援)充実のため、各種資料を作成する。	○			
	4 全国各隊のプログラム調査を行い、スカウティングの特徴を活かしたプログラム展開ができるよう支援する。(プ、指)	◎	○	○	○
	5 指導者訓練修了後における更新制度の検討を行う。(指)	○			
	6 日本連盟トレーニングチームの充実を図る。(指)	○			
	7 組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって会員拡充を推進する。(団・組)	◎	○	○	○
	8 募集説明会用に手持ちのものを再編集して活用できるツールを作成する。(団・組)	○			
	9 野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ、全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進する。(PT、プ)	◎	○	○	○
	10 新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置し検討を進める。(PT)	○			
	(日本ジャンボリーなど開催可能な常設キャンプ場や指導者訓練野営場の確保を目指す)				
	11 静岡県立富士山麓山の村施設の活用を促進する。(事)	◎	○	○	○
	12 スカウトライオンズ/スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する(事)	○			
	13 とともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラムを促進する。(財)	◎	○	○	○
	14 新しいユニフォームについて全部門への移行を促進する。	○			
	15 隊活動の標準展開例のツールを作成する。(プ)	○			
	16 スカウト歌集の編纂を検討する。(ソ)	○			
	17 スカウトフォーラムを12月23日から25日まで石川県金沢市で開催する。(プ)	◎			○
	18 今後の主催大会の在り方を検討する。(プ)	○			
	19 RS年代の全国組織を活かした活動を推進する。そして、9月17日から19日まで大和の森・高萩フィールドでの奉仕活動を実施する。(プ・日コミ)	○			
	20 英国エディンバラ国際アワードリーダー研修会の開催(プ)	◎			○
	21 富士スカウトを顕彰する。(代表表敬)(プ)	◎	○	○	○
	22 国際活動サービスチームの活動を推進する。(外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等)(国)	○			
	23 海外派遣事業を実施する。(国)	○			
	24 個人・グループによる海外派遣、国際協力プロジェクト派遣、海外スカウト受入事業を推進する。(国)	◎	○		
	25 新刊書籍・資料の検討を行い発行する。(プ、指、社・広)	○			
	26 WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。(プ、指、社・広)	○			
	27 絶版書籍の再版を検討し実施する。(プ、指、社・広)	◎			○
	28 各種ハンドブックの内容改訂を行う。(関連委員会)	○			
	29 平成28年度全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。(宮城県仙台市)	◎	○	○	○
	30 トレーナー研究集会、トレーナー訓練を実施する。(指)	◎	○		
	31 新任トレーナーを養成する。(指)	○			
	32 組織拡充担当者による会合を検討する。(団・組)	◎	○		
	33 組織拡充顕彰を実施する。(団・組)	○			
	34 中途退団数の実人数を把握する。(事)	○			
	35 組織を挙げての広報活動を対外部に向けて実施する。(広、県連・地区そして団)そして、ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させる。	◎	○	○	○
	36 目的を明確にした広報資料を作成する。(社・広)				
	(a ボーイスカウトとは b 新規募集のためのもの c 入団した保護者向けのもの)	○			
	37 スカウト運動のイメージを社会に広める。(社・広)	○			
	38 すべてのスカウト保護者向け資料の提供を検討する。(社・広)	◎			○
	39 ホームページ等電子媒体の充実と活用を図る。(社・広)	◎			○
	40 全国BS写真コンテストを実施する。(社・広)	◎			○
	41 東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。(事)	○			
	42 維持会員入会促進活動等を推進する。(事)	○			
	43 ボーイスカウトカードへの入会促進を図る。(事)	○			
	44 遺贈システムのPRと促進を図る。(事)	○			
	45 世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。(事)	○			
	46 行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。(事)	○			
	47 書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。(財)	◎	○	○	○
	48 23WSJで構築した募金ネットワークを継承し活用する。(財)	◎			
	49 平成28年度以降の安全促進フォーラム内容の検討を行う。(SfH・安)	○			
	50 「共済事業」の運用を行う。(共済)	◎	○	○	◎

- 日－１：ＲＳ部門の在り方の方向性については、今年度に「ＲＳ部門在り方検討タスクチーム」を再編成し、部門の在り方、ハンドブック、セミナー、ＲＳ認識章等を検討した。平成２６年度までの検討内容を確認し、その後のＲＣＪによる活動状況や長中期計画の内容を踏まえて、引き続き検討することとした。
- 日－２：全国ローバースカウト会議（ＲＣＪ）を通じてローバースカウト活動の活性化を図ることについては、次の活動を展開した。
- ・全国大会において、３７県連盟の代表が集まり年次総会を開催した。また、テーマ別集会にて、ローバースカウト活動とＲＣＪについての活動紹介とグループディスカッションを行った他、期間中を通じてエキスポ会場にて全国の活動紹介を行った。
 - ・新たな運営委員にて、全国とのつながりを広げるとともに、そのネットワークを活かして日本連盟主催事業の情報を共有して、協力者や参加者を募った。
 - １０月　ＡＰＲ災害対応マネジメントワークショップ（参加者募集）
 - １１月　しぜんとあそびデイキャンプ２０１６ in 高萩（スタッフ募集）
 - ・各ブロックにおいてオンラインを中心とした会議が定期的に行われるようになり、また、ブロック内でのイベントも県連盟代表を中心に行われるようになった。
 - ・効率的な情報提供や情報交換を実現するために、ホームページ運用の準備に取り組んでいる。
 - ・過年度のフォーラム参加者と協力して、国際フォーラムチームの編成を検討している。
- 日－３：平成２７年に編成した「ビーバー隊長ハンドブック・カブ隊長ハンドブック検討タスクチーム」の作業を元に、内容をよりわかりやすくした改訂版を、「ビーバー隊リーダーハンドブック２０１７年改訂版」「カブ隊リーダーハンドブック２０１７改訂版」として平成２９年２月に発刊した。
- 日－４：全国各隊のプログラム調査を行い、スカウティングの特徴を活かしたプログラム展開ができるように支援することについては、指導者訓練コースと各種ハンドブックを通じて提供し、次の取り組みを行った。
- ・指導者訓練上級コースの課程の中でプログラムの調査を実施。これに基づき、コース運営をした。
 - ・各種ハンドブック改定にも反映をした。
 - ・菊章、隼章の各県連盟の取得状況の調査を行った。
- 日－５：重点施策１－４－②「隊指導者基礎訓練課程の改定」に付随する、定期的な研修の機会の提供となっている。指導者の任務変更時などに最新の研修情報を提供するための更新研修について、引き続き来年度に検討を行う。
- 日－６：リーダートレーナーと副リーダートレーナーの役務分担、都道府県連盟トレーニングチームと日本連盟トレーニングチームの関連など、現行のトレーニングチーム充実のためのあり方についての検討をおこなっている。日本連盟ディレクター会議および指導者養成委員会において、トレーナーの資格、任務、資質、技能などについて引き続き来年度も検討を行う。
- 日－７：組織拡充モデル県連盟については、今年度から高知県連盟と山口県連盟を、平成２９年度からは秋田県連盟を加え、組織拡充を推進している。
- ・高知県では、９月に高知県連盟、高知第８団、高知県教育委員会、高知柏ライオンズクラブ、高知北ロータリークラブ、高知新聞社、イオンモール高知を、１２月に高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知商工会議所、世界救世教高知布教所を訪問し、支援要請を行い、防災キャラバンの日程（１２月１１日）に合わせて、イオンモール高知にて、高知県連盟、高知第８団とともに募集活動を行った。更に２月には、高知県教育委員会、高知商工会議所、高知青年会議所、高知新聞社を訪問し、２月１２日にはボーイスカウト講習会を開設した（参加者計８人）。
- 日－８：募集説明会用の資料の再編集によるツール作りについては、団支援・組織拡充委員会の取り組みのみならず、社会連携・広報委員会で取り組んでいるＰＲ計画と連携した取り組みを進めている。
- 日－９：野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進することについては、野営場整備とプログラムの開発を中心に次の取り組みを行った。
- ・加盟員の専門的技術のある方に協力いただき、整備を進めた。
 - ・茨城県および高萩市の助成により、野営地の拡大、ファイヤー場整備、道路の整備などを実施した。
 - ・ローバースカウト年代の全国大会として「ＲＣＪクエスト２０１６ in 高萩」を開催し１２２人が参加した。
 - ・地球環境基金の助成を得て、地域の小学生延べ３１８人を招待して、授業の一環として、自然体験教室を実施し、その活動を通じてプログラム開発を行った。
- 日－１０：新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置することについては、長中期計画の行動計画より平成２８年度に取り組んだ施策（１２－８）に記載のとおり、調整段階である。
- 日－１１：静岡県立富士山麓山の村施設の活用については、主要施策（７－①）「第１３回日本アグーナリー」記載のとおり実施した。
- 日－１２：スカウトライオンズ／スカウトロータリアン入会促進活動等の推進については、
- ・全国大会の際、各々総会を開催した。
 - ・スカウトロータリアン会員は、新規１人、退会４人の計５５人となった。

- ・スカウトライオンズ会員は、新規2人、退会6人の計50人となった。
- ・今後、会員数増加に向けて、引き続き活動を行っていく。
- ・29年度は企業への協賛・寄付依頼を強化していくが、この営業活動にスカウトライオンズ／ロータリアンの協力を求めている。

日ー13：ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラムの促進については、1人あたり3万円の助成するもので、募集、審査、助成金送金等を実施した。原資となる「もったいない寄付」の依頼文書を発信して協力を呼びかけた。今年度は、10県連盟30人（うち18人が今年度新規）の助成を実施した。「もったいない寄付」の使用済み葉書は切手交換等により換金した。新たにブックオフでの古書引取募金も展開することとした。

- ・平成25年中より呼びかけている資金については、書き損じハガキ回収によるものに加え、図書館に設置したリーフレットから加盟員以外からの寄付も得られていることから、平成26年度より各県連盟を通じて募集。27年度に9家庭12人で助成を開始した。
- ・平成28年度は上記12人全員が継続申請し助成を行い、さらに新規募集として14家庭18人に対して助成を行った。
- ・初年度の助成上限は20人としていたが、今年度は継続＋新規で30人になったので、更なる原資作りの拡大が今後の課題である。

日ー14：新しいユニフォームの全部門への移行については、順調に進んでいる。

日ー15：隊活動の標準展開例のツール作成については、現在「スカウトの日」特設サイトで運用している報告掲載を流用する方法で試験的に運用することとした。

日ー16：スカウト歌集の編纂については、スカウトソング特別委員会にて過年度からの修正内容を確認のうえ、ビーバー、カブ、ボーイスカウトそれぞれの歌集について、次版から改訂することとした。

日ー17：第21回全国スカウトフォーラムは次のとおり開催した。

- ・12月23日（金）から25日（日）まで、石川県金沢市キゴ山ふれあい研修センター青少年交流棟にて、41県連盟45人（県連盟代表41人、石川県連盟オブザーバー4人）のベンチャースカウトが参加し、第21回全国スカウトフォーラムを開催した。テーマは「防災⇒現在へ ～あしたにそなえて、私たちができること～」とした。
- ・過去のフォーラムを経験したローバースカウト年代から、実行委員会とフォーラムアドバイザーを公募し、ローバースカウトが実行委員長を務め、ローバー年代の実行委員とフォーラムアドバイザーを中心に運営することができた。
- ・2泊3日のフォーラムの成果としてフォーラム宣言を取りまとめ、日本連盟プログラム委員会に提出された。宣言文については、関係委員会や教育推進会議で検討していくこととした。
- ・フォーラム宣言は、日本連盟ホームページにも掲載し、各県連盟でのアフターフォーラムの開催を促進し、全国のベンチャースカウトがフォーラム宣言に取り組めるよう取り計らった。

第21回全国スカウトフォーラム「フォーラム宣言」

私たち、第21回全国スカウトフォーラム参加者は石川県での2泊3日にわたる議論を通し、「防災⇒減災へ ～あしたにそなえて私たちができること～」のテーマのもと、全国のベンチャースカウトが具体的なアクションを起こすべく、以下のことを採択し提言いたします。

採択文

減災について私たちができることから取り組み、地域社会へ貢献できる知識・技能を持ったベンチャースカウトになる。

アクションプラン

- ・スカウト活動をしていく中で災害を日頃から意識し、ベンチャースカウトとしての進歩に取り組むことで、災害時に素早く対応できる知識・技能を身につける。
- ・減災への取り組みを個人でできることから行って、災害に備えることで心にゆとりを持ち、災害時には周りの人に思いやりのある行動をしていく。
- ・団や隊の中で災害を意識した上で、スカウトとして取るべき行動についての知識・技能を共有する機会を設ける。
- ・防災・減災を含めた地域の様々なイベントに参画して地域の方々と交流を行い、災害時にもその繋がりを活用できるようにする。

約束事項

本フォーラム参加者は各自県連盟でアフターフォーラムを実施し、全国のベンチャースカウトがアクションプランに取り組むことができるように努める。

平成28年12月25日

第21回全国スカウトフォーラム 議長 枝迫雄大（ボーイスカウト東京連盟）

日－１８：今後の主催大会の在り方を検討することについては、平成１９年度に見直された「主催大会の在り方」を、再度見直し、「中間答申」をスカウト教育推進会議に提案することとした。今年度は、平成２７年度時点の検討状況を確認し、諸会議に諮るために言葉の精査を進めた。

日－１９：ＲＳ年代の全国組織を活かした活動の推進と大和の森・高萩フィールドでの奉仕活動については、次のとおり実施した。

- ・Paddle your own canoe（自分のカヌーは自分で漕げ）～自分ノ道ヲ自分デ拓ケ～のテーマのもと、全国からローバースカウトが集まり、次のとおり「ＲＣＪクエスト２０１６ in 高萩」を開催し、高萩スカウトフィールドの開拓・整備作業や、ローバーフェス（交流会）を行った。

会 期 平成２８年９月１７日（土）～１９日（月・祝）

会 場 茨城・高萩スカウトフィールド

参加者 ボイスカウト加盟員３０県連盟１０６人、ガールスカウト加盟員４人、一般参加者３人、スタッフ（実行委員会）９人、合計１２２人

- ・ＲＣＪ運営委員会や大会実行委員会が、大会の企画から運営を担い、１１年ぶりとなるローバースカウトの野営大会を、自主運営により開催した。
- ・加盟員以外にも友好団体や一般にも参加を呼びかけ、参加者を得ることができた。
- ・プログラムを通じて、高萩スカウトフィールドの開拓・整備に寄与した。
- ・ブロックごとに生活班を編成しＲＣＪ運営委員が班リーダーになることで、参加者と大会前から連絡を取り合い、ブロック内の各県連盟の動向を把握しつつ、参加に向けた準備から当日の運営までを円滑に進めることができた。

日－２０：英国エディンバラ公国際アワードリーダー研修会の開催については、一般事業（団－５）に記載とおり、ローバースカウト年代のプログラムの一環として、英国エディンバラ公国際アワードを導入しており、更なる周知・普及を計るため、今年度は、アワードリーダー研修の実施はせず、本プログラム参加促進のためにアワードリーダーへの情報提供に関する検討を行い、海外を含めたアワード事例などの情報を収集し、今後提供していくこととした。

日－２１：富士スカウトの顕彰（代表表敬）は、次のとおり実施した。

- ・富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に開催した。
- ・平成２８年１月１日から１２月３１日までに富士スカウト章を受章した３０県連盟１４７人のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト９４人により実施した。

（東宮御所表敬）

日 時：３月２１日（火）１４：００～１４：４５（東宮御所日月の間）

参加者：代表スカウト３０県連盟４７人

（首相官邸・文部科学省表敬）

日 時：３月２７日（月）１３：４０～１４：００（文部科学省）

１７：４０～１８：００（首相官邸）

参加者：代表スカウト１８県連盟４７人

- ・司会、決意の言葉、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行った。
- ・代表スカウトは、訪問日前日に集合し１泊２日の準備訓練を実施した。
- ・参加者アンケート等により、スカウトにとって多くの学びや成果があったことが確認できた。
- ・皇太子殿下のお言葉、義家文部科学副大臣、萩生田内閣官房副長官、そして、富士スカウトＯＢの山本ボーイスカウト振興国会議員連盟理事からも激励の言葉をいただくことができた。
- ・昨年度の事業対象者は１８２人で、今回１４７人となり、約２割の減少となったが、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体の約２％である。
- ・平成２８年度（４月１日～３月３１日）の富士スカウト章受章者は、１３１人となり、平成２７年度受章者１７３人より減少した。

日－２２：国際活動サービスチームの活動を推進については、外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等を行い、チームの活性化を図るとともに、将来国際社会で活躍できる人材を育成、発掘することを目的としている。今年度の状況は次のとおりであった。

- ・アイルランドローバースカウトの受入期間中、国際活動サービスチームの協力を得て国内の案内を行うことができた。この受入事業によって新規に国際活動サービスチームに加わるメンバーもあり、チームの拡大に繋がった。
- ・海外派遣の支援および翻訳協力については、チームでの活動はなかった。

日－２３：海外派遣事業については、今年度の計画は次の１０派遣であったが、このうち７派遣を実施した。

派遣先は、アメリカ、インドネシア、オーストラリア、韓国、スイスの５カ国で、合計４１人を派遣した。

① カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣（ローバースカウト１人）

② 国際キャンプスタッフ計画派遣（ローバースカウト２人）

③ スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）（ローバースカウト１人）

- ④ スカウトオーストラリア短期留学(学習旅行)派遣 (ベンチャースカウト5人)
- ⑤ フィルモント派遣 (スカウト6人、指導者2人、合計8人)
- ⑥ 韓日スカウトフォーラム派遣 (スカウト10人、指導者3人、合計13人)
- ⑦ 第14回韓国ジャンボリー派遣 (スカウト10人、指導者1人、合計11人)
- ⑧ 第15回インターアメリカ地域スカウトジャンボリー派遣 (中止)
- ⑨ 第21回ニュージーランドジャンボリー派遣 (中止)
- ⑩ CJKプロジェクト・バングラデシュ派遣 (中止)

韓日スカウトフォーラム派遣、韓国ジャンボリー派遣は再募集を行った。発着地を福岡とし、船便の利用により、参加者の経費負担を軽減した。今年度の実績を踏まえ、平成29年度の韓日スカウトフォーラム派遣とCJKベンチャープロジェクト派遣(韓国)については、福岡からの渡航とする。
本年度に県連盟・地区・団等による「海外派遣」として承認された計画は、13県連盟、18事業、参加者198人であった。

日ー24：海外スカウト受入事業については、次の4つの受け入れ事業を行い、4カ国より74人の受け入れを行った。

- ① オーストラリア短期交換留学スカウト受入 (ベンチャースカウト2人)
- ② アイルランド連盟ローバースカウト受入事業 (ローバースカウト11人)
- ③ CJKベンチャープロジェクト(日本開催) (台湾11人、韓国10人、日本11人、合計32人)
- ④ 平成28年度日韓スカウト交歓計画 (ベンチャースカウト36人、指導者4人、合計40人)

本年度に県連盟・地区・団等の計画による「外国スカウト受入計画」として承認された計画は4県連盟、4事業、訪日団参加者合計76人であった。

日ー25：新刊書籍・資料の検討を行い発行することについては、関係する委員会との連携により行っている。
今年度は「先人に学ぶ-先哲のおしえ」、「スカウトスキルセレクション」を発行した。一般書店、ネット書店等で広く販売できる方法を検討することが課題となっている。

日ー26：WOSM・外国連盟資料の翻訳・出版については、今年度は該当する書籍がなく実施しなかった。

日ー27：絶版書籍の再販については、スカウトスピリッツの醸成に繋がる古典的書籍・記事等の選り抜きを集めたムック本の発行準備着手している。編集の方向性と30年春の発行予定を定め、選り抜き等の準備作業を進めている。平成29年が実編集作業時期となり、平成30年に入って具体発行のための製作と印刷を行う。平成30年度全国大会(5月)でのお披露目を目指し進めている。

日ー28：各種ハンドブックの内容改訂については、指導者養成委員会、プログラム委員会との連携により進めている。

日ー29：平成28年度全国大会については、次のとおり実施した。

- ・5月28日(土)から29日(日)まで宮城県「東京エレクトロンホール宮城」他で689人の参加者を得て開催した。1日目は日本連盟からの各種報告等・年次表彰・全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会・交歓会を、2日目は、全国スカウト教育会議(テーマ集会)を行った。また、2日間にわたって行ったスカウティングエキスポ・宮城県連盟主管の「ぼうけん広場」では、加盟員有志、諸団体、地元物産他40を超えるコーナーを設置した。
- ・昨年度に引き続き、諸会議(全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会)を1日目に移したことにより、2日目の全国スカウト教育会議には多くの参加を得ることができた。
- ・スカウティングエキスポ、ぼうけん広場では、加盟員以外からも多くの来場者があった。
- ・全国スカウト教育会議(テーマ集会)は、7つのテーマを設定した。①視察プログラム(半日コース・岩沼植樹～・上)、②視察プログラム(1日コース・津波被災地視察～石巻)、③セーフ・フロム・ハーム(思いやりの心を育む教育)とは何か、④ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の進級制度の見直し、⑤全ての指導者にスキルトレーニングを、⑥今更聞けない、宗教章の取り方、⑦ローバースカウト活動とRCJについて今年度もタイムリーな内容で構成し、また、諸会議を1日目に移したことにより、多くの指導者に参加者してもらうことができた。
- ・10月以降、平成29年度全国大会(鳥取)の準備を開始した。

日ー30：トレーナー研究集会、トレーナー訓練については、次のとおり実施した。

トレーナー研究集会

今年度は平成29年2月4日から26日まで全国11会場で開催し、今年度の日本連盟の指導者養成に関する取り組みと平成29年度の予定を報告し、共通研究テーマを「ウッドバッジ研修所スカウトコースにおける隊スタッフと班担当所員の役務の研究」に設定し、各地で研究をおこなった。

全国のトレーナーに新指導者訓練を浸透させ、隊指導者・団指導者への支援の方法について深く考察する機会となっている。

リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画及び実施をするための技能を修得することを目的として開設している。

(6月22日～6月26日 於・那須野営場 14県連盟15人の参加となった)

副リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導

入訓練課程及び基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。
(6月8日～6月12日 於・那須野営場 16県連盟30人の参加となった)

日－31：新任トレーナーの養成については、次の通り実施した。

新任副リーダートレーナー研修会

副リーダートレーナーコースを修了し、トレーナー就任を承諾された者を対象に委嘱状、3ビーズの授与の他、手続き、心構えについて研修を行った。

3月11日(土)東会場：BS会館 3月12日(日)西会場：大阪スカウト会館

トレーナーの任務や、必要な資料の活用方法、関連する教育規程について研修を行い、トレーナーとして奉仕する決意を新たにしている有意義な研修となっている

日－32：組織拡充担当者による会合は、次のとおり実施した。

- ・11月5日と6日(日)の2日間通い型で、東京・ボーイスカウト会館にて「加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと」をテーマに、全国組織拡充担当委員長会合を開催した。
- ・参加者22県連盟23人、スタッフ14人(膳師日本連盟コミッショナー、団支援・組織拡充員会委員ほか7人、事務局7人)
- ・内容：①日本連盟コミッショナーによる日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の概要説明、②団支援・組織拡充委員長による当委員会の取り組みについて、③社会連携・広報委員長による基調講演「ボーイスカウトの魅力を発信しよう」、④団支援・組織拡充委員による事例研究「新規発団にあたっての、地元・地区・県連盟の連携と協力」、⑤グループ討議(2日間)
- ・前年度までの担当者会議より担当委員長会合に変更したこと、参加者数は減少したが、開催後のアンケート結果から、各参加者が多くのものを持ち帰れると、高い満足度を得たことは評価できる。次年度からも毎年度恒例の会合として定期的に開催することで多くの参加を集えたい。

日－33：組織拡充顕彰については、次のとおり実施した。

- ・平成27年度は、平成28年度全国大会表彰式において顕彰を実施した。
【県連盟対象】①スカウト加盟員数の増加＝2県連盟、②BVS隊設置＝5県連盟、③スカウト継続登録者率＝0県連盟、④団数の増加＝0県連盟
【団対象】Sランク＝10県連盟18団、Aランク＝28県連盟116団
- ・今年度については、平成28年11月25日付で全県連盟宛に文書発信し、「平成29年度全国大会」表彰式において顕彰する。
- ・対象の県連盟・団は減少しているが、全国大会「表彰式」において、多くの県連盟、優良団の出席を得て顕彰を行うことができた。
- ・組織拡充顕彰は、隊長・団委員長表彰との兼ね合いがあるが、平成27年度に表彰内容が変更されたことにより、重複感のない顕彰を行えることとなった。

日－34：中途退団数の実人数を把握することについては、毎月末に登録状況を集計し、諸会議に配布することで連盟全体での把握を進めた。

日－35：組織を挙げての広報活動を対外部に向けて実施し、ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させることについては、平成28・29年度のPR活動計画を実施・展開することにより進めている。

年度当初は一般事業として計画されたが、PR活動計画は重点事業としての取り組みとなり、平成29年度事業計画では重点事業としている。

このPR計画は、今年度は主にPR計画の概要策定と協力委託先の選定・予算獲得、そこからPR計画の具体化に着手し、平行してPR計画への協力を全国に呼びかける各種普及活動を進めた。実展開は平成29年度からが中心となるが、想定以上の計画を展開している。(PR計画推進状況は別冊資料編を参照)

日－36：目的を明確にした広報資料を作成、

日－37：スカウト運動のイメージを社会に広める、

日－38：すべてのスカウト保護者向け資料の提供を検討、

日－39：ホームページ等電子媒体の充実と活用

これらの4項目については「日－35」の平成28・29年度PR活動計画に沿って、社会連携・広報部で検討している。平成28年度版の普及資料はWEBサイトにすでに反映している。

日－40：全国BS写真コンテストの実施については、機関誌11月号で告知を開始し、機関誌1月号でキャンノン協賛による商品発表、2月末日応募締切で審査を行い、平成29年度に入選発表等を行う。

協賛による商品提供含め着実に進めている。今後は事業そのものへの協賛をより太くしていくことが課題となる。

日－41：東京オリンピック・パラリンピック支援への準備については、次の取り組みを行った。

- ・各種競技会への国旗奉仕などを展開し、関係機関との調整を図っている。
- ・車いすテニス国際大会の開会式・閉会式においてスカウトが参加国の国旗奉持を行った。
- ・トヨタ自動車オリンピック・パラリンピック部／オリンピック・パラリンピック等経済界競技会からの協力要請があり、全国県連盟代表者会議でも説明をいただくなど連携に着手している。

依頼を受けての取り組みは一部進んでいるものの、核となる事業主体との連携については進展していない。

日－４２：維持会員入会促進活動の推進については、

- ・平成２８年度の維持会費実績は、各県連盟の多大なる協力を得て、無事目標額の５千２百万円を５年連続で達成することができた（２９年３月末日現在。ただし対前年比では△５，６０８千円）。
- ・目標達成県連盟は３４県連盟。
- ・新たな維持会員獲得のための「維持会員年功章」の制定について提案準備をしてきた。これは２９年度に継続審議中であるが、平成２９年度の制定、規程改正、認証、平成３０年度の授章を目指している。
- ・また日本連盟役員への法人維持会員依頼企業紹介の依頼をかけ、全国の新たな法人維持会員開拓への取り組みを開始した。
- ・さらに、日本連盟での企業訪問等が各県連盟でのスポンサー等とバッティングしないよう、全県連盟に寄付社リストなどの提供を依頼し、現在集約中である。
- ・加えて、目的寄付などの新たなメニューを検討。うちいくつかは２９年度中の始動を目指している。

維持会員	総計	3,762	個人・法人
(内訳)			
通常維持会員		3,489	個人・法人
特別維持会員		73	個人
法人維持会員		117	法人
旧特別維持会員		83	個人・法人

維持会費入金額

当該年度実績額	53,904,131	円（予算額の 103.7%）
当該年度予算額	52,000,000	円
前年度実績額	59,512,100	円

当該年度実績額内訳

県連盟取扱額	42,937,597	円（予算額の 116.0%）
県連盟協力依頼額	37,000,000	円
前年度実績額	43,597,000	円
日本連盟取扱額	10,966,534	円（予算額の 73.1%）
日本連盟予算額	15,000,000	円
前年度実績額	15,915,100	円

（注）（平成２８年度県別維持会員数、維持会費入金状況表は「資料編」参照）

日－４３：ボーイスカウトカードの入会促進については、

- ・平成２３年度よりウェブによる申込システムを導入し入会促進を図っている。
- ・ボーイスカウトカード会員数（平成２８年度２月末日現在）
総計 1,582 人（内訳）正会員数 1,451 人、家族会員数 131 人
- ・ウェブによる申込システムを導入し、加入者数は一旦下げ止まりを見せた。対前年同時期では 40 人減少となった。
- ・これまで入会者促進について各県連盟に協力を依頼し、キャンペーンなどの検討も行ってきたが、一般的に個人が新しいカードを増やす傾向にないこともあり、新たなカードメリット等の検討が必要と認識している。現在の提携カード会社の是非も含め検討していく。

日－４４：遺贈システムのＰＲと促進については、

- ・ホームページに掲載し、各県連盟への協力依頼を行っている。
- 相続税が改正され需要が見込まれるが、今後各県連盟とどの様に協調を図っていくかが課題である。
- ・全国レガシーギフト協会の発足もあり、この加入等もあわせ検討していく。

日－４５：世界スカウト財団・ＡＰＲ財団への支援については、

- ・世界スカウト財団「ワールド ベーデン・パウエル フェロウシップ」へ日本チャプターと連携して協力、支援を行った。メルボルンでイベントが開催され、日本からは合計 17 人の方々に参加した。
- ・昨年以降 8 人の入会者があり、現在会員数 241 人となり、世界で米国に次いで第 2 位の会員数である。
- ・アジア・太平洋地域（ＡＰＲ）スカウト財団には日本から 176 人が入会しており、地域のスカウト活動への支援を行っている。
- ・その他のスカウト財団については、インターアメリカ地域スカウト財団、ヨーロッパ地域スカウト財団、アフリカ地域財団等にも多数の日本人会員が参加して地域のスカウト活動への支援を行っている。

日－４６：行政・民間からの委託・助成事業の獲得については、情報収集を行いながら、該当事業を申請し、助成を受けた。

一般財団法人セブン・イレブン記念財団	
・スカウトの日（環境美化の推進）	5,500 千円
茨城県、高萩市	
・高萩スカウトフィールド	50,000 千円

独立行政法人環境再生保全機構（地球環境基金）		
・森から学ぶESD(持続可能な開発のための教育)の実践 (高萩スカウトフィールドの活用事業)		
静岡県	約 24,000	千円（予定）
・第12回日本アグーナリー		
	30,000	千円
＜以下は申請したが不採択となったもの＞		
日本宝くじ協会		
・一般青少年のための野外活動情報誌製作配布	12,746	千円
日本郵便株式会社		
・青少年野外教育活動用車両の新規整備	1,180	千円
Yahoo! 基金		
・防災減災活動支援部門助成プログラム	1,000	千円

日－47：書き損じはがき等回収による「もったいない寄付」の促進については、

- ・全国加盟団を通じて、家庭にある書き損じハガキ等を回収のうえ、仕分け、整理をした。
- ・この寄付は、「ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム」（日－13項参照）の資金として活用している。
- ・昨年度から続いて、全国から2万枚以上のハガキ（未使用、書き損じ）が寄せられた他、切手、テレカ類、貴金属類、CD、DVD、ゲームソフトなどが寄付された。27年度は見送った分をあわせ、換金を行った。換金方法については、協力企業などが増えてきていたことから、効率のよい方法を改めて選択した。
- ・平成28年度の換金額総額は1,989,000円。上記のとおり昨年度は換金を見送ったため、この額に達した。ただし、書き損じハガキの交換による切手は、今後手数料が引かれるため、実質は目減りする。このため、より多くの回収が行えるよう普及広報を行うとともに、広く企業への協力などを求めている。

日－48：23WSJで構築した募金ネットワークの継承と活用については、

- ・23WSJ資金造成活動において、様々な方面から寄附・協賛をいただくことができた。このつながりを、今後も、ボーイスカウト活動全般（法人維持会員）ならびに各種大会にも引き続きご支援いただける様、継続して働きかけていくこととしているが、十分には実施できていない。
- ・純然たる寄付は企業も枠を狭めている面があり、寄付の拡大には難しさもあるため、企業側が実質的なメリットを得られるような「協働事業」などの提案を通して、BSにも企業にも利益となる関係の構築から進めるよう鋭意取り組んでいる。イオン、ユニクロとの提携はその好例である。こうした関係を継続する中、スカウト運動への「深い共感」を促し、継続的な支援を得られるようさらに取り組んでいく。

日－49：平成29年度以降の安全促進フォーラムの内容検討については、今後の在り方及び体系について検討を行った。

日－50：「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行されるが、概要は次のとおりである。

- ・平成26年4月より「PTA・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよつねに共済』を開始し3年目を迎えた。ボーイスカウト活動中の事故を補償する。共済掛金は800円であるが、9月以降の加入は600円に減額している。
- ・平成29年3月末現在、115,102人（内、非加盟員を5,901人を含む）の申込を受付して運用した。昨年度同様、加入総人数の93%が4月に加入している。前年度と比較すると、加盟員の減少傾向と相俟って、5,154人（約4.3%）の減員となった。
- ・非加盟員の加入は、加入者全体の約5.1%であった。8月の非加盟員の加入率は、対前年同月の2倍あり、10月、1月、2月の3か月を除いて対前年比で増加し、全体で約一割増加した。
- ・教育規程一部改正に伴いビーバースカウトの仮入隊時期変更の影響を受けた昨年度と同様に9～11月の加入者数は減少している。
- ・事故状況については、前年度に発生した事故も含めて当期中に386件の「事故発生状況受付簿」を受理した。当年度に発生した事故に限れば356件で、前年度と比較した同時期の件数比では約7.9%増となった。・平成28年度内に発生した事故は今後も一定数「事故発生状況受付簿」を受理することが見込まれ、最終的には450件位になる見込みである。
- ・共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次のとおり円滑に行われている。
 - ①「安全促進フォーラム」の開催については、一般事業「県－9」（P.20）参照。
 - ②安全分野に係わる各種資料制作：安全セミナーの受講者用研修ノート及び講師用ハンドブック、並びにスカウティング誌掲載記事抜粋の冊子（安全委員会作成『野外活動のための安心・安全講座』）作成。指導者への情報提供を通じて、活動中の事故低減を図った。
 - ③昨年度、ボーイスカウトの各都道府県連盟事務局及び那須野営場、山中野営場、日本連盟にAEDを各1台配備した経費は、5年間に亘り安全普及啓発活動費より支出している。

各種会議の開催

評議員会・理事会の開催

平成28年度第1回理事会： 平成28年5月12日（木）ボーイスカウト会館で開催

1. 平成27年度の事業報告について
2. 平成27年度の収支決算について
3. 評議員の選任について
4. 定時評議員会の議題について
5. 平成28年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
6. 平成30年度全国大会開催地について
7. 第13回日本アグーナリー開催地について（平成32年開催）
8. 共済事業に関する定款の一部改正について
9. 第17回日本ジャンボリー（平成30年開催）に関する答申について
10. 委員会規程の一部改正について
11. 土地の寄贈について

平成28年度臨時理事会： 平成28年5月28日（土）東京エレクトロンホール宮城で開催

1. 代表理事及び副理事長、専務理事、常務理事、日本連盟コミッショナー、国際コミッショナー、業務執行理事の選任について
2. 名誉会議議長の選任について
3. 日本連盟副コミッショナーおよび国際副コミッショナーの選任について
4. 名誉役員の選任について

平成28年度定時評議員会： 平成28年5月27日（金）東京エレクトロンホール宮城で開催

1. 平成27年度の収支決算について
2. 任期満了に伴う理事・監事の選任について
3. 評議員の選任について
4. 共済事業に関する定款の一部改正について
5. 土地の寄贈について

平成28年度第2回理事会： 平成28年10月11日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 日本ジャンボレット高萩2017の開催について
2. 高萩スカウトフィールドの整備と予算措置について
3. 山中野営場の閉鎖について
4. 平成29年度事業に関する実行委員会等の編成について
5. 平成29年度国の委託事業・公益団体等補助事業の申請について
6. 登録に関する教育規定の改正について
7. 任期満了に伴う県連盟コミッショナーの委嘱について
8. 社会連携・広報委員長の就任について

平成28年度臨時理事会（第2回）： 平成29年1月17日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 平成28年度臨時評議員会の議案について
2. 平成28年度・29年度PR活動計画について
3. 諸規程の一部改正について
4. 東日本大震災に伴う登録料の支援について（岩手・福島）
5. APR災害対応ワークショップ経費について

平成28年度第3回理事会： 平成29年3月14日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 高萩スカウトフィールド管理棟の寄贈について
2. 山中野営場の財産処分について
3. 諸規程の制定について
4. 平成29年度事業計画について
5. 平成29年度予算について
6. 加盟登録料の減免について
7. 維持会員年功章の制定について
8. 平成29年5月評議員会の議題について
9. 第17回日本スカウトジャンボリー基本実施要領および大会予算（概算）について
10. 第18回日本スカウトジャンボリー会場誘致について（案）

- 1 1. 第9回APRサミットへの日本代表団の編成と対応について
- 1 2. 第41回世界スカウト会議への日本代表団の編成と対応について

平成28年度臨時評議員会：平成29年3月14日（火）ボーイスカウト会館

1. 高萩スカウトフィールド管理棟の寄贈について
2. 山中野営場の処分について
3. 倫理規程の一部改正について

運営会議の開催

構成員：奥島孝康理事長、日枝久副理事長、松平頼武副理事長、水野正人副理事長、
西村 稔専務理事、佐野友保常務理事、吉田俊仁常務理事、
膳師 功理事（日本連盟コミッショナー）

開催日：第1回 平成28年 4月 5日（火）
第2回 平成28年 5月12日（木）
第3回 平成28年 6月 7日（火）
第4回 平成28年 7月 5日（火）
第5回 平成28年 9月 6日（火）
第6回 平成28年10月 4日（火）
第7回 平成28年11月 8日（火）
第8回 平成28年12月20日（火）
第9回 平成29年 1月17日（火）
第10回 平成29年 2月14日（火）
第11回 平成29年 3月 7日（火）

場 所：東京 ボーイスカウト会館

県連盟代表者会議の開催

〔第1回〕

日 時：5月28日（土）15：30～17：30

場 所：宮城・東京エレクトロンホール宮城

出席者：46都道府県連盟理事長または代理者、39都道府県連盟事務局長または代理者
日本連盟 奥島理事長、他8人

- 内 容：1. 平成28年熊本地震への支援について
2. 平成28年度からの日本連盟の体制について
3. 平成27年度事業報告・決算について
4. 平成28年度事業計画・予算について
5. 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画について
6. 維持会費のお願いについて
7. 日本連盟野営場について
8. 日本連盟各種委員会の編成と取り組みについて
9. セーフ・フロム・ハームの導入について
10. 23WSJ日本派遣団決算報告について

〔第2回〕

日 時：1月28日（土）13：00～15：50

場 所：東京・ボーイスカウト会館

出席者：43都道府県連盟理事長または代理者
日本連盟 奥島理事長、他理事10人

- 内 容：1. 平成29年度事業計画（案）、予算（案）について
2. ボーイ部門およびベンチャー部門の進級課程の改正について
3. セーフ・フロム・ハームについて
4. 平成28年度・29年度PR活動計画について
5. ボーイスカウトエンタープライズ業務報告について
6. 日本ジャンボレット高萩2017について
7. 富士特別野営2017について
8. 山中野営場お別れイベントについて
9. とともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラムについて
10. 維持会費のお願いについて
11. 第17回日本スカウトジャンボリーについて

全国県連盟コミッショナー会議の開催

〔第1回〕

日 時：5月28日（土）15：30～17：30

場 所：宮城・東京エレクトロンホール宮城

出席者：県連盟コミッショナー46人（代理4人含む）

日本連盟 膳師日本連盟コミッショナー、西村・鈴木各副コミッショナー、
村田団支援・組織拡充委員長、山内指導者養成委員長、
福島プログラム委員長、増田「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員長、

- 内 容：1. 平成28年度日本連盟事業計画について
2. 平成28年度日本連盟コミッショナー活動方針について
3. 日本連盟常設委員会編成と各委員会の取り組みについて
4. 指導者養成委員会報告
5. プログラム委員会報告

〔第2回〕

日 時：10月21日（金）14：00～23日（日）11：30

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：県連盟コミッショナー46人（代理8人を含む）

日本連盟 膳師日本連盟コミッショナー、鈴木・西村各副コミッショナー、
水野国際コミッショナー、嶋田国際副コミッショナー、福島プログラム委員長、
山内指導者養成委員長、増田S f H・安全委員長、
大久保日本連盟ディレクター、碓井S f H・安全委員

- 内 容：1. 平成29年度事業方針（案）について
2. 各常設委員会報告
3. セーフ・フロム・ハーム研修について
4. BS・VS進級課程の改定と移行措置について
5. 平成29年度指導者訓練機関の開設について
6. コミッショナーアクションプラン発表について
7. グループ討議「地区コミッショナーハンドブックの活用」「少人数団・隊への支援」

〔第3回〕

日 時：1月21日（土）13：00～22日（日）11：15

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：県連盟コミッショナー47人（代理5人を含む）

水野副理事長・国際コミッショナー、膳師日本連盟コミッショナー、
鈴木・西村 各副コミッショナー、嶋田国際副コミッショナー、
福島プログラム委員長、山内指導者養成委員長

- 内 容：1. 平成29年度事業方針（案）について
2. 講演「ボーイスカウトの魅力を発信しよう」
3. BS・VS進級課程の改定と技能章について
4. 平成29年度指導者養成事業について
5. 平成29年度各種主催行事について

全国事務局長会議の開催

日 時：11月19日（土）15：50～20日（日）11：10

場 所：石川県珠洲市 17NSJ会場および珠洲ビーチホテル

出席者：47都道府県連盟事務局長および代理者、参席1人

日本連盟 西村専務理事、吉田常務理事、膳師日本連盟コミッショナー

- 内 容：1. 17NSJ会場視察および取り組みについて
2. 平成29年度事業方針（案）および100周年記念事業への取り組みについて
3. セーフ・フロム・ハームの取り組みと来年度登録について
4. 山中野営場の今後について
5. 日本ジャンボレット高萩2017の開催について
6. 日本連盟事務局各部からの連絡について
7. ボーイスカウトエンタープライズからの連絡について
8. 都道府県連盟からの情報提供 について 他

参考（規程等改正一覧）

1. 教育の方法に関する教育規程の改正（ボーイスカウト及びベンチャースカウトの進級課目の改定）
承認：平成28年9月4日開催のスカウト教育推進会議
公示：平成28年11月1日
施行：平成29年9月1日
2. 加盟登録に関する教育規程の改正
承認：平成28年10月11日開催の理事会
施行：平成28年10月11日
3. 宗教章に関する教育規程の改正
承認：平成28年11月27日開催のスカウト教育推進会議
施行：平成28年11月27日
4. 教育の方法に関する教育規程の改正（技能章の細目および記章に関する改定）
承認：平成29年2月19日開催のスカウト教育推進会議
施行：平成29年9月1日
5. 指導者養成に関する教育規定の改正
承認：平成29年2月19日開催のスカウト教育推進会議
施行：平成29年4月1日
6. 運営会議に関する規程の改正
7. 県連盟代表者会議に関する規程の改正
8. 経理規程の改正
9. 情報公開規程の改正
10. 個人情報管理規程の改正
11. 「公益財団法人ボーイスカウト日本連盟における個人情報の保護（プライバシーポリシー）について」の改正
承認：平成29年1月17日開催の臨時理事会
施行：平成29年1月17日
12. 「セーフ・フロム・ハーム」通報相談処理規程の制定
承認：平成29年3月14日開催の理事会
施行：平成29年4月1日
13. 文書管理規程の制定
14. 事務決裁規程
承認：平成29年3月14日開催の理事会
施行：平成29年3月14日
15. 倫理規程
承認：平成29年3月14日開催の評議員会
施行：平成29年3月14日

平成２８年度ボーイスカウトエンタープライズ事業報告

１．決算月の変更

平成２８年度は決算月を３月から１月に変更した事で、２月、３月という販売金額が多い月が平成２９年度になったため、予実 186,000 千円の金額が減額した。（販売予算 515,000 千円、実績 328,256 千円）

２．新制服の積極販売

新制服販売初年度であった。（ＢＳ部門以上）

平成２８年３月、４月、５月ではサイズによっては在庫切れが出てしまい、各県連盟に迷惑をお掛けした。これは、平成２６年１２月のボーイスカウトエンタープライズの理事会において、メーカーに対する発注金額を 132,567 千円以内と決定し、その金額内で発注したものであった。全体的には足りたが、一部のサイズでは在庫切れした。それらに関しても、２カ月以内に補充が出来た。

３．各種会合・大会でのスカウトショップ展開と商品提供

- （１）第１２回日本アグーナリー大会でのスカウトショップ
- （２）各県連盟のキャンボリー、ブロック大会でのスカウトショップ
 - ・北海道・東北ブロック大会
 - ・茨城県連盟キャンボリー
 - ・神社スカウトキャンボリー
 - ・東海４県連第２回キャンボリー
 - ・千葉県連盟キャンボリー
- （３）韓国ジャンボリー（商品提供）
- （４）富士特別野営大会２０１６でのスカウトショップ
- （５）平成２８年度全国大会（仙台）でのスカウトショップ
- （６）日米フレンドシップパトローリー大会のショップ

４．平成２９年度行事への準備

日本ジャンボレット高萩に向けた商品開発等の準備を進めた。